

梅乃木彬夫 著

鬼滅の刃はドグラ・マグラ 2

# ドグラ・マグラの

誕生…の巻



扉のイラストは筆者の知り合いの小学生に書いてもらった。

〔目次〕

第1章 夢Qのバックボーン

夢野久作・化物語	―幼年編―	8	付論4	黙して語らず	
夢野久作・化物語	―怪異編―	28		廣田弘毅、最後の外交戦	113
夢野久作・化物語	―壮年編―	35	付論5	廣田の隣人たち	
直樹おにいさまの思い出	49			杉原千畝とシロタ一家	117
幕末・萌え	62				
二次元・萌え	74				
平民宰相	80				
肉のカーテン	85				
ベルリンの赤い雨	99				

## 第2章 襦ね豆ず子この竹

- 記憶の遺伝 122  
嗅覚の冴え 126  
五人の同期隊士 134  
我妻善逸 143  
雷属性の聖地 145  
嘴平伊之助 155  
ドグラ・マグラの誕生 160  
少女の竹 169  
モヨ子とミヨ子 180

付論6 夢野久作と今泉の詩女神ミユメたち 200

②ドグラ・マグラの誕生…の巻

## 本書の登場人物

I…『ドグラ・マグラ』を読了後に精神に異常をきたし、自分をドグラ・マグラの主人公「呉一郎」くれいちろうだと信じきっている平成生まれの患者。九州大病院の精神科病棟第七号室に入院中の稀代の美少年で、ドグラ・マグラに関する数々の推理を語りだす本作の主人公。

W…『ドグラ・マグラ』を読了後に精神に異常をきたし、自分をドグラ・マグラの作中人物「若林鏡太郎」わかばやしきょうたろうだと思い込んでいる患者。主人公Iとは同部屋で、諸事万端ドグラ・マグラに結び付けた言動をする傾向の多い、マンガ好きの中年の入院患者。

## 第 1 章

---

### 夢Qのバックボーン

明治27年に家督を継ぎ、第九代杉山家当主となった五歳の夢野久作と祖父母たち



夢野久作・化物語 — 幼年編 —

W…それでは、これからドグラ・マグラの基本捜査に取りかかります。その前に、まずは著者の夢野久作についてザツクリと身辺調査をおこなっておきたいのですが、貴方様は久作の家庭環境などの調査は済まされたのでしょうか？

I…夢野久作個人についてはその思考法のバックボーンを探るために、生い立ちや生家のルーツなどについてはある程度の調べはついています。まあ、あくまで僕が調べえた範囲ですが、まずは久作の実父である杉山茂丸の人物像などから順を追ってお話してみましようか？

W…それは忝い。ぜひ、お聞かせ下さいませ。二人はいつたい、どのような来歴を経てきた親子だったのかということをも。

I…杉山家の家伝が記された杉山龍丸(たつまる)の「西の幻想作家—夢野久作のこと—」(2)によれば……、久作の父・杉山茂丸は幼少期は明石元二郎(あかし もとじろう)と近所同士だったそうですから、その生家は現在の福岡市中心部の天神界限(てんじかいわい)ということになりましたしうかねえ……。

W…天神……、天神町……。ということは、県庁舎が建つておつた辺りなのですか？

I…若林教授、それは昭和の頃までのオハナシです。県庁舎はとつくの昔に、ここからすぐその東公園に移転していますよ。

天神の旧県庁舎跡は、今ではアクロス福岡という名の大きな会議場と、それに隣接した広い公園になっていきます。この会議場の建物は地下鉄の走る大通り……マア、昔の路面電車、のちの西鉄市内電車の貫通線（明治通り）のことなんですがネ。それをはさんで鎮座する水鏡天満宮の真向いに位置していることから、建物の巨大なステップガーデンに植栽された樹木が成長するにつれて、さながら人造の鎮守の杜とでもいった風情で会議場を訪れる県民の憩いの場となっています。

杉山家の口伝では、茂丸と明石元二郎は元治元（1864）年9月の同年同月生まれで、幼少期は竹馬の友としてすごしていたとのこと。もともと、僕の調査では杉山茂丸が生まれたのは前年の文久三年の9月17日（旧暦）で、新暦では1863年10月29日の生まれとなり、明石元二郎よりは一歳上だったのだらうと思つていますが……。

W…そのような些細な年月のズレなんぞは一向に構いません。昔は役所に届ける子供の出生日などは親の都合でだいたい大雑把だったのですから。それよりも、夢野久作の父と明石元二郎が竹馬の友だったのですと!?

日露戦争においては、英国諜報員シドニー・ライリーから旅順要塞の地図を入手するなどして帝政ロシアを翻弄する伝説的な諜報戦を仕掛けていた、あの明石元二郎とは旧知の間柄だったのです

か、杉山茂丸は!! 当時はまだ大佐だった明石元二郎は、ポーランドやフィンランドの民族独立派に武器と資金を提供して反戦および反政府運動が先鋭化するよう仕向けて、第一次ロシア革命(1905年)の下工作もしておったとか……。

明石元二郎は他にも、血の日曜日事件、戦艦ポチョムキンの叛乱事件などにも関わっていて、ロマノフ王朝を内側から攪乱する「明石工作」でロシア帝国を戦争継続困難な状況へと陥れておったと……。その卓越した諜報手腕から、ドイツ皇帝ヴィルヘルムⅡ世をして、「明石元二郎一人で満洲の日本軍20万に匹敵する戦果を上げている」といわしめたほどの、少年ジャンプ連載中の遠藤達哉先生原作『SPY×FAMILY』の敏腕スパイ・黄昏も真つ青な、スパイ・マスターだったはず!!

I・ハイ。横山光輝先生の『魔法使いサリー』に登場してくる「サリーちゃんのパパ」の髭よりも巨大な、まるで冗談のようなカイゼル髭を生やしていた参謀次長・長岡外史も、「明石の活躍は陸軍10個師団に相当する」と評していたくらいで……。のちの欧州大戦の折には、一説ではスイスに潜伏中のある革命家と接触して、封印列車によるドイツ縦断計画をサポートし、この生まれついでレーニン主義者をバルト海からスカンジナビア経由でロシア国内に潜入させて、第二次ロシア革命(1917年)の狼煙を上げさせていたという噂まであったとか、なかったとか……。

W・20世紀初頭の世界史の局面の要所要所には一枚噛んできておりますなあ、明石元二郎は!! やはりコレは、大佐が革命家たちの心を触ったということなのでしょうかな?

I…そのような明石元二郎とは幼少期からの朋友だったとされる杉山茂丸もまた、明石に引けをとらない傑物でした。二十歳の血気盛んな頃に上京して、首攫い組<sup>くびさら</sup>を自称したこの若者は、伊藤博文を「悪政の根源、藩閥の巨魁<sup>きょかい</sup>」と目してその暗殺を企て、山岡鉄舟の紹介状を持参して面会にまで漕ぎつけますが、その場で伊藤から「祖国に尽くす国士たれ」と説伏<sup>せつぷく</sup>されて殺害を断念。そして何故か後々、伊藤公の懐刀<sup>ふしろがたな</sup>に収まってしまったという人物です。

W…ちやうど勝海舟の暗殺に向いて、逆に弟子入りした坂本龍馬のような経歴の持ち主ですな。

I…茂丸は生涯無位無官を貫き、一介の流浪人<sup>るろうじん</sup>として在野に身を置きながら、したたかな言動と巧みな政界遊泳術を駆使して山縣有朋、兎玉源太郎、桂太郎、寺内正毅<sup>まさいげ</sup>、松方正義<sup>まつもとよし</sup>、井上馨<sup>いの上</sup>、後藤新平らの懐に入って参謀役を務め、経済、外交、内政などに陰から献策を行っていたようです。

たとえば、伊藤博文が立憲政友会を結党するにあたっては、その資金提供を斡旋<sup>あつせん</sup>したり、日英同盟締結の黒幕として時の宰相・桂太郎に条約締結の方策を指南したり、はたまた、ロシアの南下政策に対抗して、予想戦地への兵や物資の迅速な輸送を念頭に、博多港の築港や世界初の海底トンネルとなる関門海底鉄道の計画を立案<sup>らん</sup>したりしています。

さらに、対馬海峡での海戦を想定して、負傷兵を速やかに治療できる野戦病院の必要性に鑑<sup>かん</sup>みて博多湾沿岸部に帝国大学医科大学を誘致すべく陰働きしています。その結果、日露戦争開戦（1904年2月）の約半年前のタイミン<sup>7</sup>グでギリギリ開設（1903年）が間に合った京都帝国大学福岡医科大学に、若かりし頃の若林教授や正木博士<sup>まき</sup>が第一期生として入学されたという訳です。

茂丸は日露戦争時には山縣有朋に随行して満洲へと渡り、奉天で日本軍の指揮を執る児玉源太郎大将の幕舎に同宿して戦争継続と停戦講和のタイミングを陰から献策しています。そして講和の際には同郷で元・黒田藩士の金子堅太郎を渡米させ、金子がかつて在籍したハーバード大学ロー・スクールのOBだったセオドア・ルーズベルト大統領を担ぎ出させて、満洲鉄道の利権を餌に仲介役を引き受けさせていたとも噂されております。あと、派手な逸話としては、米国の金融王J・P・モルガンとサシで交渉して莫大な融資を約定させた話なども……。

このような日露戦争必勝の絵図を裏で描いた化け物っぷりから、杉山茂丸は当時から、政界の人形遣い（たんにまうつか）と綽名（あだな）されて一種のフィクサーとしてその名を轟かせ、福岡から鎌倉に本籍を移してからは自らを「其日庵（そのひ あん）」と号して、やたらと名刀を蒐集（しゅうしゅう）しては独り悦に入る刀剣道楽ぶりなども相俟（あいま）って、僕にいわせれば、そう！ 鎌倉の老人（れいじん）といった雰囲気的人物だったのですよ。

W・鎌倉の老人（れいじん）！ 少女漫画雑誌「花とゆめ」に連載されていた和田慎二先生の『スケバン刑事（デカガ） II 少女鉄仮面伝説』の中でも、確かそのような謎の老人が暗躍しておったような気がしましたナッ！ ……それに士郎正宗先生や押井守監督が手掛けられた『攻殻機動隊（こうかく）』にも、同じく「人形使い」という名の伝説的な謎のハッカーが登場しておったような……。

I…ええ、確かにそうでしたね……。

さて、その茂丸の長男の夢野久作の方かというと、僕が調べえた範囲内ですが、こちらはとも一言ではいい表わせないような複雑な幼少年時代を送っているようです。以下、作家になる前の

久作の経歴を、ここで掻い摘んで述べてみますね。

W…どうぞ、どうぞ……。

I…夢野久作および長男の杉山龍丸さんの著作などによれば、夢野久作こと幼名・杉山直樹は、明治22（1889）年1月4日生まれ。父・茂丸に似て、白磁のように白い肌と巻き毛の黒髪、そして抜群の記憶力を持つ脳髓を受け継いで誕生します。家伝では、祖先は佐賀藩の藩祖・鍋島直茂が下剋上で押し上がる前まで直茂自身が家老として仕えていた戦国大名・龍造寺隆信の系譜に連なる血統だとか。杉山茂丸の嫡男として福岡城下の小姓町界限で生まれ、母・ホトリとは一歳になるかならないかの頃に生別。以後は祖父・杉山三郎平灌園、継祖母・友子、継母・幾茂、異母叔母・薫の下で養育されます。

黒田藩の儒学者であった祖父からは、物心つく頃より漢学を叩き込まれます。二歳で漢籍に親しみ、三歳で論語を誦んじる神童ぶりを示す一方で、元黒田藩能楽師範・梅津只圓翁の許に入門、武士の素養である能楽の手解きを受ける武家息子でした。年齢が一回り上の叔母・薫に手を引かれて住吉から薬院中庄の梅津邸まで能の稽古着姿で通う様子は、地元では「杉山の殿々と娘々」と呼ばれて評判だったようです。

ところが直樹が四歳になった頃、父・茂丸が政治活動に没頭し、「国事道楽」と称して久しく家に帰らない状態となり、杉山家は貧窮の極みに……。ほどなくして住吉村下宮崎の那珂川河畔の居宅から、博多・鱒町の旧株式取引所裏の北風吹き込むアバラ屋へと家移りする羽目に。そこで継母

は軍隊の襯衣縫いや足袋の底刺しの繕い仕事を、叔母の薫と継祖母の二人は押絵づくりにいそしむ……といった爪に火を点すような極貧生活に転落します。

そのボロ家での暮らしも立ち行かなくなると杉山一家は離散状態となり、明治27（1894）年に直樹は祖父母と叔母の四人で、当時の御笠郡二日市村に引越して、その二年後に薫が安田家に嫁ぐと、祖父母と一緒に、宗像郡神興村八並、糟屋郡箱崎町等県内を転々としています。そんな貧困生活の中で他の家族とは離ればなれで子供を育てていた継母・幾茂が愛息・峻を亡くし、残された長女・瑞枝の手を引いて箱崎の家へ越してきて同居すると、直樹は俄かに半分血が繋がった妹から「お兄様！」と呼ばれる境遇となります。

直樹が八歳を迎える頃になると茂丸の羽振りがよくなり、一家は茂丸を頼って福岡の箱崎町から上京、東京府は麻布笄町にあつた立派なお屋敷に移り住むこととなります。この黒田氏の邸宅での借家住まいの中で異母弟・五郎が誕生しています。

そんな東京での生活が一年も続く頃に、中風を患っていた祖父がしきりに福岡に帰りたいがるようになり、直樹もまた継祖母・友子に連れられて三人で帰郷します。九歳で故郷に舞い戻った直樹は、住吉村大字春吉、博多・北船町、西職人町、雁林町……と、またも家移りを繰り返して福岡市内を転々としています。大名尋常小学校に四年生で転入した直樹は、翌明治32（1899）年に警固の福岡男子高等小学校に入学。この入学式の帰り道に、直樹は晴れ着姿で荒戸の大島家を訪ねて生母・ホトリとの再会を果たします。ちょうどこの頃、ホトリは再婚先の高橋家で夫・群稲に先立たれて

実家の福岡市に戻っていたのです。

男子高等小学校を卒業する前年、中風を患っていた祖父の容体が悪化し、重篤な状態のまま三ヶ月後に他界します。その後、継母・幾茂が瑞枝と五郎を連れて九州に下って福岡市荒戸町（通称・通町）に移り住んでくれて、灌園に先立たれた継祖母・友子と直樹もそこに同居して暮らし始めます。

明治36（1903）年、かつて灌園が藩校時代に教鞭を執っていた中学修猷館に十四歳で入学すると、直樹は時々、筑豊地方の豊国炭坑の社宅に移住したホトリを訪ねて、異兄妹・チヨの遊び相手になっていたようです。

このかん、荒戸の杉山家では新たに異母妹二人が誕生（二女・たみ子、三女・ゑみ子）、「お兄様！ お兄さま!! おにいさま!!!」とチョットばかり姦しい家庭環境となります。そういう中で学業では文学、宗教、音楽、美術の研究に凝り、また運動面ではテニスに夢中になって運動部でキャプテンを務めたりしています。

この中学在学中にまたもや茂丸に放置されて杉山一家は貧困生活に逆戻りして、戸主の直樹が単身、父のもとに赴き抗議、家族が共に暮らせるように直談判します。その甲斐あって中学卒業後には一家で再度上京し、東京市京橋区築地にあつた茂丸の会社兼政治サロンだった台華社の二階居住スペースや、神奈川県鎌倉郡鎌倉町長谷の茂丸の邸宅で生活できる運びとなります。

この家族上京の交換条件として直樹は近衛歩兵第一聯隊に一年志願兵として入隊する約束を父と

交わしており、あわせて大学への進学ものに許されて文科で歴史学を専攻する慶応ボーイとなります。慶応在学中、陸軍少尉拝命の辞令が下る前月に愛弟の五郎が早世すると、かねがね杉山家の嫡男で当主でもある直樹が文学方面を志向し文弱の徒に墮すことを嫌っていた茂丸から直樹に学業廃止の厳命がくだります。こうして、学業成績は常に首席か次席だったにもかかわらず、二十四歳で慶応を中退した直樹は、父が新たに福岡市外の立花山の麓に購入させた原野で果樹農園を開拓すべく帰郷。荒地の山肌で鉢巻儀作のように鋤を揮うこと丸一年。突然、家族の柵を断ち切るかのように誰にも行方を告げぬまま流浪の旅に出た……といった感じの前半生を送っております。

この時、杉山直樹こと、のちの夢野久作二十五歳。郷里を去る時の胸の裡はタブン、

二十五の 今日まで聞かず  
不如帰ホトトギス<sup>16</sup>

と門扉に一句を付して家を出た、美登利屋坪太郎の心境ではなかったのでしょうかねえ。

## 注解

(1) 杉山龍丸(1919～1987年)は夢野久作の嫡男。最終階級は少佐の元陸軍航空技術将校。

満洲から東南アジアへの転戦の前に、零戦の設計者・堀越二郎から戦闘機の整備技術を直伝されていた龍丸は、フィリピン戦線では配属部隊の戦闘機・隼がすべて破壊されるも、残骸から使用可能な機体部品を掻き集めて、ジャングルの中で数機の隼を修復。森から敵陣へと出撃した隼は所属不明の幽霊戦闘機（ファントム・ジャバニーズ・ファイターズ・チーム）として米兵に恐れられた。

敗戦後、龍丸は農園経営のかたわら、千葉県・稲毛に設けられた引揚援護庁援護局の嘱託事務職員として出征兵士の留守家族にその安否を知らせる職務に就いた。のちにその時の苦悩を短い随筆に綴って雑誌に掲載した。その随筆「二つの悲しみ」は中学三年生向けの教科書に採用され、戦後70年の2015年には山田洋次監督によって映画『母と暮らせば』でも一シーンとして取り上げられるが、龍丸が夢野久作の息子であることを知る国語教師は皆無に等しい。

杉山茂丸が、「アジアの各国が独立した時に、農業指導者が必要になる。その農業指導者を育てるために、農園を造れ」と久作に命じて誕生した杉山農園は、久作の歿後、龍丸が引き継いだ。龍丸は士官学校の同期生から押しつけられたインド人留学生の世話を奇縁に、インドの農業技術の支援に取り組んだ。1965年から三年間に500万人余りが餓死したといわれるインドの大飢



インドで記念植樹をする杉山龍丸、光子夫妻。右が杉山龍丸著『グリーンファザーの青春譜』

餓に際しては、台湾政府首脳に直談判、日本統治時代の台湾で日本人技術者・磯永吉博士が開発した門外不出のジャポニカ種の「蓬萊米」の種粳20トンが国連（FAO）経由で体制の違う国に届けられることになった。

龍丸は父から相続した杉山農園の土地を切り売りして資金を捻出、一個人でインド北西部の広大な不毛の大地を緑の沃野に変えるために奮闘した。インドでは「Green Father（緑の父）」と呼ばれる杉山龍丸のことを、母国日本や故郷福岡で知る人は少ない。1985年7月、脳溢血で倒れる。87年9月、逝去。

不屈の魂をもって生を貫いた人である。

著書に『印度をあるいて』『飢餓を生きる人々』『砂漠緑化に挑む』『グリーンファザーの青春譜』

インドでの植樹の成功を報告する杉山龍丸（昭和53年3月16日付、毎日新聞夕刊）

アントムと呼ばれた士<sup>サムライ</sup>たち」（原題「幻の戦闘機隊」）などがある。作家、夢野久作の生涯の証言者としては、『わが父・夢野久作』『夢野久作の日記』など。

(2) 同書は昭和53年に「九州文学（第5期）」に12回にわたって連載されたが単行本にはなっていない。2023年12月に発行された夢野久作と杉山三代研究会の会報『民ヲ親ニス第10号』に初めて全文収録された。

(3) ここで主人公Iが主張している杉山茂丸の生誕日に関する調査結果は、『夢野久作の日記』（杉山龍丸編、1976年、葦書房刊）の423頁に収載の「杉山家戸籍謄本①」の「父・茂丸、出生・文久参年九月拾七日」を根拠としている。明治政府は明治6（1873）年から太陽暦（新暦）を採用しているが、それ以前は太陰太陽暦（旧暦）を使用していたことから、ここでの杉山茂丸の出生日は旧暦によるものであった。

(4) 山本巖は『夢野久作く快人Q作ランドく』（1994年、夢野久作展実行委員会刊）の中で、若き日の杉山茂丸について次のように述べている。

久作の父親、杉山茂丸は明治十八年、二十一歳の時、総理大臣伊藤博文暗殺の志を抱いて上京した。茂丸が昭和四年に出版した自伝的著書「俗戦国策」によれば、その時彼は「長閥政権の詐欺師共を斃して郷里幾多の先輩と、天下幾多の志士の怨恨を慰むるの外はないと覚悟した」からである。「長閥」とは薩摩の大久保利通亡き後の伊藤ら長州出身者の政権を指す。茂丸は上京に際して父三郎平にその志を打ち明けた。すると三郎平は「天下の爲めに死を決したる事は武士の子たる者として尤ももの事と思う」、自分もまた「九州各藩知友」とともに死ねなかつたことを常々恥じていたので「汝の死を聞くと同時に夫婦共に自刃」する、と述べたという。

幕末の黒田藩には早くから勤王運動がありながら、藩の主流が動かず倒幕運動に参加できなかった。久作の祖父三郎平も勤王派であり、謹慎処分を受けて帰農している。三郎平がいう「九州

各藩知友」とは勤王運動の同志を指す。福岡の士族の間には、やみくもに西欧化に突っ走る薩摩、長州閥の明治政府への反感が強く、明治十年には西郷隆盛に呼応して「福岡の変」を起こしたが、わずか七日間で鎮圧され、首謀者は斬罪に処せられた。玄洋社を結成した頭山らの世代は、福岡の変に参加したもつとも若いグループである。頭山より九歳若い茂丸は福岡の変にも参加していないが、父親や先輩たちの怨念を継承した。現代では想像することが難しいが、その怨念は時の総理大臣の暗殺を計画するほどの激しさであった。のちに夢野久作は長男龍丸氏に「明治の元勳や大将や華族はみんな人を踏み付けにして偉くなったのだ。本当に御一新のために働いた純粋な人々は皆死んでいったのだ」と語ったという。その言葉は、薩長政府とは、倒幕運動や西南戦役で死んでいった無数の勤王の志士への裏切りの上に成立したのだという、祖父、父、さらに頭山ら福岡士族の認識を継承したものである。(以上、山本巖「福岡から見た、もうひとつの近代」―「近世快人伝」を中心にして」から)

(5) 日露戦争開戦の2年前(1902年1月)に、ロシアのアジア進出を牽制する目的で日本と英国との間に締結された軍事同盟。

杉山茂丸著『俗戦国策』によれば、茂丸は暢氣倶楽部のんきクラブで親交を深めた桂太郎と児玉源太郎に「天皇の信任の厚い伊藤が直接でかけて行ってロシアという臍へそを押せば、必ず日英同盟という尻が出る」と語り奇策を授けている。

日清戦争(1894年7月〜95年4月)終結後、伊藤博文はロシアとの軍事的衝突を避けるため日露協定の締結を模索していた。この話を耳にした茂丸は、表立っては賛同の意を示して伊藤の背中を押すが、裏では桂に「元老筆頭の伊藤が動けば、彼の訪露中に必ずや、東アジアの利権確保を目的に英国側から、日本に有利な条件で軍事同盟の打診が舞い込んでくる」と語り、機を逃さず、伊藤がロシアと条約内容を協議中に先を越して日英同盟を締結するよう桂首相に献策している。その後、露都

サンクトペテルブルクでロシア外相から日英同盟締結の報を知らされて伊藤は失意のうちに帰朝。皮肉にも明治天皇からは日英同盟締結を祝す功勞金が伊藤に下賜されたという。元老でさえ手玉にとつて捨て駒として使うこの逸話からも、人形遣い・杉山茂丸の「世界政策」のスケールの大きさが窺われる。司馬遼太郎が明治日本の勃興を描いた『坂の上の雲』の足下では、下陰の地ベタに臥した茂丸という名の土竜が縦横に機略を巡らせていたということか。

(6) ここでいう「立案」とは、対馬海峡や朝鮮半島および満洲が戦場となった時に戦地に最も近い内地の港である福岡が兵站の要衝となることを想定した茂丸による国土改造計画のこと。

以下は茂丸の歿後のことになるが、1953年に停戦した朝鮮戦争を機に日本国内で整備が進められた高速輸送網が当時、福岡をゴールとしていたのもこうした事情からだった。物資や人を大量輸送する高速自動車道と新幹線の整備が博多を目指して急ピッチで進められた。西南戦争後に薩摩への押さえとして発展した熊本市から、九州の中心都市が福岡市へとシフトした最大の要因は朝鮮戦争によるところが大きい。

なお、令和の現在において、日本列島の虎口ともいえる福岡県は自衛隊駐屯基地の数では九州最多であり、第4師団司令部が置かれる陸上自衛隊・福岡駐屯地の東側面にはJ R九州最大の南福岡鉄道車両基地を配し、半島有事に備えて平時から兵站輸送ルートを確保している様子が窺える。また、航空自衛隊・春日基地南面の春日公園、博多湾の壁となる海の中道海浜公園、湾内を一望する志賀島の潮見公園、西公園、および福岡県庁と福岡県警察本部側面の東公園、福岡市役所東隣りの天神中央公園、アメリカ領事館とNHK福岡放送局が隣接する大濠公園と舞鶴公園、テレビ西日本(TNC)とRKB毎日放送の南北には百道中央公園とシーサイドももち海浜公園、西鉄福岡天神駅の西隣りの警固公園、博多駅の周縁を囲む中比恵・音羽・人參・明治・出来町公園、福岡空港の東丘陵には東平尾公園、奈多へりポート(別名・福岡空港奈多地区)の隣りには滑走路にも似た直線道路と雁の巣レク

リエーションセンター・国営公園といった具合に、都市防衛の要衝となる地点には必ず一定規模の公園が配置され、有事における配兵スペースが確保されている。

週れば、四百年前に軍師・黒田官兵衛が市街戦を想定して海岸・河岸防衛の要衝として出城に見立てた神社仏閣を密集配置した町割りなどが、修羅の国の都市設計の特徴の一つとなっている。

(7) のちの九州帝国大学医学部の呼称。1886(明治19)年に公布された帝国大学令では単科大学の設立は認められておらず、苦肉の策として京都帝国大学の一学科として1903(明治36)年に福岡に飛び地の医学科を開設するという方便がとられた。1911(明治44)年、福岡の箱崎に工科大学が設置され、既存の京都帝国大学福岡医科大学と併せて、複数学科を有する九州帝国大学が誕生。その後、帝国大学令は1919(大正8)年に改正され、<sup>〃</sup>学科<sup>〃</sup>という名称は<sup>〃</sup>学部<sup>〃</sup>へと改称され、「九州帝国大学福岡医科大学」は「九州帝国大学医学部」と改められた。

(8) 直樹がホトリと生別した時期や、継母・幾茂が杉山茂丸と結婚した時期については、本シリーズの三巻目(モーサマの眼とヨコセイの四月馬鹿<sup>イナフカ</sup>の巻)で考証の予定。

(9) 花鳥・人物などの形を厚紙で製し、これを美しい布でくるみ、中に綿をつめて高低をつけ、板などに貼りつけたもの。↑羽子板(広辞苑より)

(10) その頃、明治27年の春に父・茂丸が役場に隠居届を出して分家すると、五歳の直樹が杉山家の戸主となり、九代目当主として家督を相続している。

(11) (チュウフウ・チュウブとも) 半身不随、腕または脚の麻痺する病氣。脳または脊髄の出血・軟化・炎症などの器質の変化によって起こるが、一般には脳出血後に残る麻痺状態をいう。古くは風氣に傷つけられたものの意で、風邪の一症。中氣。風症。(広辞苑より)

(12) ここでいう住吉村大字春吉は、現在の福岡市中央区春吉にあたる。2022年3月12日に夢野久作の嫡孫・杉山満丸氏が「夢野久作と杉山三代研究会」第九回研究大会の基調講演で、久作の過去

の戸籍謄本をもとに公開された内容から。また別の出典としては、同研究会会報『民ヲ親ニス 第1号』13頁に収載されている「杉山家除籍謄本」に「明治參拾壹年八月拾八日筑紫郡住吉村大字春吉九百參番地へ転籍届出住吉村戸籍吏◎◎◎◎受附同月拾九日届出及入籍通知書発送同月式拾五日受付除籍」とある。除籍謄本にある明治31年は、直樹満九歳の年にあたる。

(13) 直樹が杉山家の家督を相続した時期については注解10でふれた。

(14) 台華社は、杉山茂丸が孫文と協議し、台湾をアジアの農業センターとし、中国の革命を遂行するために、台湾の台北市につくった事業社。後に、杉山茂丸の主催する日本の政財界のクラブとなった。(『夢野久作の日記』440頁より)

杉山茂丸は台北市とは別に東京築地にも台華社を置いており、本文中の台華社は「内閣製造所」とも評された築地台華社を指す。この築地の台華社は関東大震災(1923年)で焼失したが、その後、麹町区三年町二番地にあった中村清七郎の借家に茂丸が移り住み、台華社もそこに移った。

(15) 鉢巻儀作は『ドグラ・マグラ』に登場する狂人。来る日も来る日も解放治療場内の砂地で鍬を振るい、汗だくで何も実らぬ砂の畑を終日耕し続ける狂人。

(16) 山地に棲んで初夏に「キョキョキョ」と鋭く鳴く中型の鳥、ホトトギスは、杜鵑・時鳥・子規・郭公・不如帰・杜魂・蜀魂・杜宇・田植鳥・田鵲などと書かれる。不如帰は「不如帰去」から「去」を略したもので、「帰るに如かず」と読み、意味は「帰るほうがよい」となる。

中国の故事に、古蜀の望帝・杜宇が帝位を譲って国を去ったのちに、その靈魂がホトトギスに姿を変えて「不如帰去(＝帰り去くに如かず)」と啼いたとあることから。こちらの場合の「去」は帰る方向を示すもので、その場から去ることを表す。意味としては「帰ってゆくほうがよい」くらいか。〈不如帰〉の注解協力、駒澤大学中国語非常勤講師・柳留理先生

二十五歳の夢野久作の場合は、単に「故郷に帰りたい」という意味ではなく、この世に生を享けた

一人の人間として、自らの天命の道に「不如帰去」、帰り去かねばならない」と決意して旅に出たのだろう。

(17) なお、虚構化された私小説として『ドグラ・マグラ』を読んでみると、不如帰の一句は放浪生活に入るにあたっての作者自身の心境を仮託したものと考えられる。美登利屋坪太郎は、立花山の緑したたる農園（父によって押し込められた緑の牢獄）から抜け出した若き日の夢Q自身の姿の投影であったのではないかと。……だとすると、新聞記者時代に久作が使用分けた数多くのペンネームの一つに、三鳥山人や香俱土三鳥があるのも偶然ではあるまいと。また、久作の別の筆名、土原耕作の投影が鉢巻儀作だったのではないかと。

『ドグラ・マグラ』の作中で登場する「青黛山如月寺縁起」には、若き日の坪太郎（空坪）の出走理由として……、

長じて空坪と号し、ひたすら山水を慕ひて復、家を嗣ぐの志無し。然れども年長するに随ひ他に男子無きの故を以て妻帯を強ひらる、事一次ならず、学業未到の故を以て固辞すと雖、間葛藤を避くるに違あらず。遂に、父坪右衛門の請により隠元老師の諭示を受くるに到るや、心機一転する処あり、



大正8年頃の杉山農園西側農場。このとき、久作は福岡に帰ってきていた

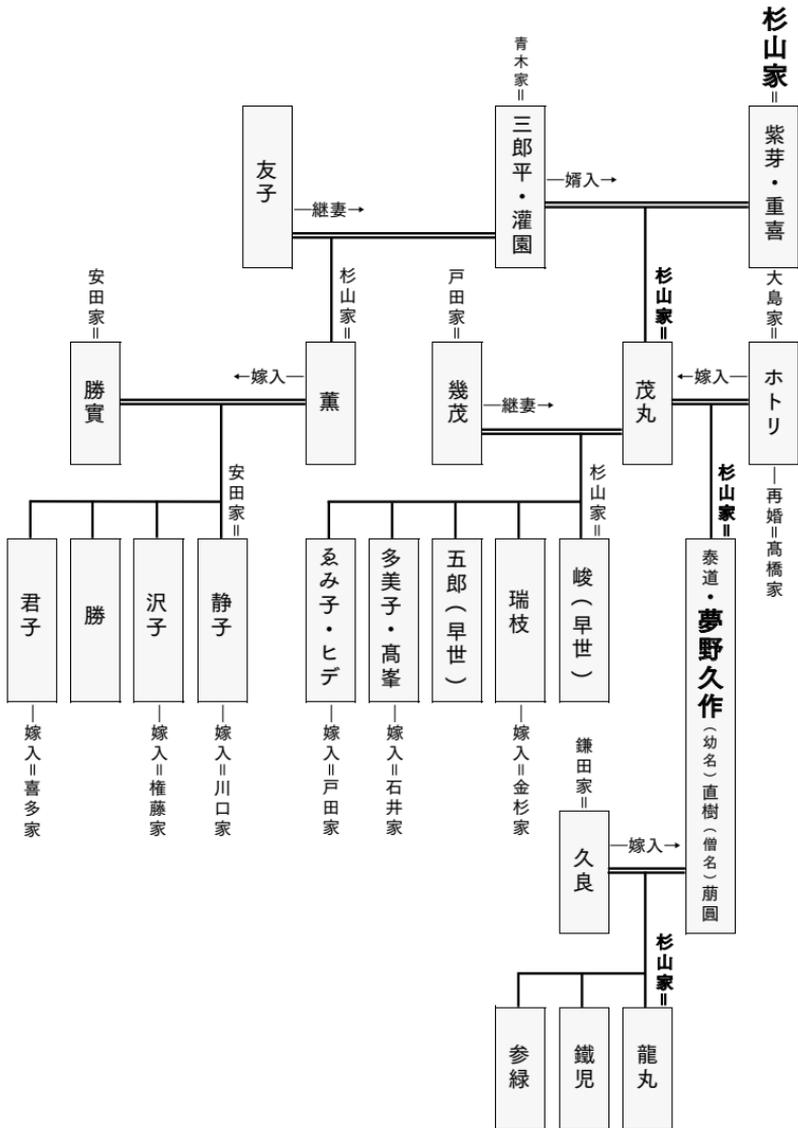
「二十五の今日まで聞かず不如帰」

といふ一句を吾家の門扉に付して家を出で法体となりて一笠一杖に身を托し、名勝旧跡を探りつゝ、西を志す事一年に近く、長崎路より肥前唐津に入り来る。時に延宝二年春四月の末つかた、

空坪年二十六歳なり。(松柏館書店版、444頁)

とあり、「空坪年二十六歳なり。」という箇所と、久作が東京で出家した年齢、二十六歳が一致している点などからも、久作の若き日の苦悩が行間に滲み出ているように思える。弟・五郎を亡くし、茂丸の血筋を継ぐ唯一の男子となつた久作には、杉山家の戸主として嫁取り話が頻繁に舞い込んだのだらう。原野の開墾の労苦とも相俟つて、これが杉山農園から久作が遁走した一因となつたように筆者には思える。放浪生活に入つて4年目、経緯は定かではないが、久作は東京で——六美女のように美しい——鎌田クラと結婚する。帝都での新婚生活を半年ほど満喫した久作夫妻は福岡へと戻るが、帰郷後にクラの実家の鎌田家では、義父と義弟の間柄が悪くなり絶縁状態となる。おそらく、この一件に尾ひれがついて、鎌田家の親子の不仲話が、なぜか杉山家の茂丸と久作親子の軋轢の噂へと置きかわつて、夢Qの出奔理由として世間に広まつたのではないだろうか。

## 《杉山家系譜図》





左から、夢野久作、杉山五郎、  
瑞枝。明治33年、久作11歳



台華社における杉山茂丸



昭和3年の家族写真。左から、クラ、龍丸、  
久作、鉄児、お手伝いさんに抱かれた参緑



手前左から、たみ子、ゑみ子、  
久作。明治41年

夢野久作・化物語 — 怪異編 —

W・ウーム……家移りの目まぐるしさといい、複雑な家庭環境といい、夢野久作は普通人にはあまり聞かないような前半生を送っておったのですなあ……。

ところで只今の貴方様のご説明を伺っておるうちに、西尾維新先生の『化物語』のサブヒロインの羽川翼が何故に化け猫の怪異に取り憑かれたのか、何となく合点が行きましたぞ！ 杉山一家が福岡から移り住んだ東京府の筈町、そして正木先生の後を追って東京に出た呉千世子・一郎母子が最後に落ち着いた筈町といえ、江戸筈町の大猫の化け猫怪異譚で夙に知られた土地柄で御座いましたからなあ。それに、杉山家の祖先と伝わる佐賀の龍造寺といえ、息子を斬り殺した鍋島家に恨みを残して自害した老母の血を嘗めた飼猫が、旧家臣から下剋上で伸び上がった鍋島家を呪うべく変幻して暴れ廻った、佐賀の化け猫騒動でも知られておりましたし……。

それから、『化物語』のもうひとりのサブヒロインである神原駿河の役柄設定についてで御座いますが、こちらは夢野久作の小説『一足お先に』の筋書きにインスパイアされて、西尾先生が主人

公の肉体の欠損部位を片足から片腕に差し替えて、『ドグラ・マグラ』における「夢中遊行」の設定を参考にしながら、「猿の腕」を持つヒロインが睡眠時に自らの願望を無意識のうちに叶えてしまおうといったプロット（筋）を創造されたのではないのでしょうか？ 片足を失った『一足お先に』の主人公・新東と人としての片腕を失った神原駿河は、どちらも運動能力に秀でた類い稀なるスポーツ選手というところが共通しておりましたからな！

……ということは「スポーツ万能」というイメージの連想から更にもう一歩進んで、同じ夢Qの『少女地獄』三部作の「火星の女」のスポーツ万能少女こと甘川歌枝が学園一の美少女に想いを寄せていたという設定までも、神原駿河のキャラクターの骨格としてその性向が加味されておったのですな！

「火星の女」からその元ネタとおぼしき甘川歌枝（ミス黒焦）の遺書の一部を抜粋してみれば……、

そうして学校一の美人で、学校一の優等生と呼ばれてお出でになる殿宮アイ子様にお眼にかかりまして、大切な秘密のお話がありますからと申しまして、二人きりで応接間に閉じこもりました。殿宮アイ子さんは在学中、私の大切な愛人だったのです。

……といったようなあんばいなので御座います。

そのように考え合わせると、西尾維新『化物語』のメインヒロインである戦場ヶ原ひたぎ

が、怪異の専門家たる忍野<sup>おしの</sup>メメから好きな作家を問われて「夢野久作」と即答しておった場面や、彼女の部屋の本棚にドグラ・マグラ上・下、少女地獄、死後の恋、瓶詰<sup>びんづめ</sup>の地獄、夢野久作全集、犬神博士、氷の涯<sup>はて</sup>と、夢Qの作品がズラリと並んでおった描写なんぞは、西尾先生と脚本会議をおこなっておられた新<sup>しん</sup>房<sup>ぼう</sup>昭<sup>あき</sup>之<sup>ゆき</sup>監督から読者へ向けた告白、それも堂々たるリスペクトの宣言だったのかも知れませんかあ。

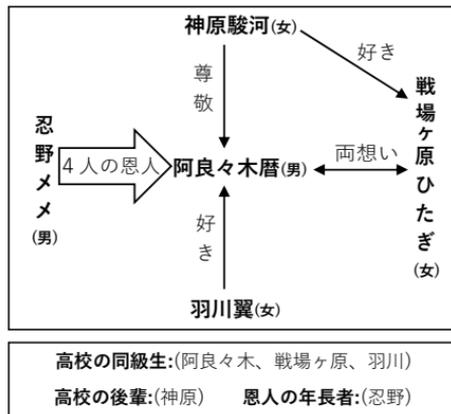
これはもう、「まよいマイマイ」の章で、戦場<sup>か</sup>ヶ原<sup>は</sup>さんが口にしていた「ソロコン」も、元はといえば呉青秀<sup>ごせいしゅう</sup>と双生児<sup>ふたご</sup>姉妹との恋愛関係から着想を得た「お義兄<sup>にい</sup>さま」ネタだったという訳ですな！

I…ソロコン？ 聞き慣れない言葉ですが……。

W…「ソロレート婚」の略で御座いますよ。姉妹逆縁<sup>しまいさぐさえんこん</sup>婚とも申しまして、奥さんと死別したあとに、その姉だったり妹だったりと再婚することを指しておるのデス。

I…教授の博識<sup>はくしき</sup>ぶりには僕はタダタダ感心するばかりですが、どうして呉青秀と黛<sup>た</sup>・芬<sup>か</sup>の双生児姉妹が、その……ソロレート婚とやらにあたるのですか？

W…呉青秀の場合は、姉ではなく妹ですな。つまり、はじめに黛と結婚して、自分と血のつながら



ない妹の芬には「お義兄さま」と呼ばせておく。そのあとに芬と結婚して、夫婦になっても自分のことを「お義兄さま」と呼ばせ続けておる。これこそ、現実的な結婚相手に「おにいさま」と呼ばせ続けられる唯一の方法……。

I…そんなら、呉青秀は最初の奥さんの黛の方を殺してんじゃないですか！ そんな非合法なことしなくたって、僕とモヨ子みたいにイトコ同士で義理の兄妹ならば、合法的に「おにいさま」と呼ばせ続けることができるのですよッ！

W…アア、貴方様の場合はソロコンではなく、シスコンでしたナ。失敬、失敬！

I………………。

W…ウーム……ナルホド、ナルホド。……ということは、ソウソウ……「自白心理と隠蔽心理」の提唱者であった我が畏友・正木先生が、学生時代に九大の卒業式をエスケープして失踪し、そのまま世界放浪の旅に出ておられたという筋骨きを模して、『化物語』の化猫ヒロイン・羽川翼もまた、直江津高校を卒業後に世界放浪の旅に出ておったという訳なのですなッ！

この、羽川翼については神原駿河と同じく、怪異が発現している最中は本人の主人格の自我は深い眠りに沈んだまま「夢中遊行」状態となつて、まるで姪浜事件の朝に養母の呉八代子をニコニコと笑いながら下駄で滅多打ちにしておった呉一郎のように、自分とは血の繋がりのない両親を襲撃するという設定になつておりましたからなあ……。

I………………。

W…これはモウ、アニメ版・化物語シリーズで主人公・阿良々木暦あらかぎこよみの自宅のお風呂場が、個人宅として是不釣り合いなほど巨大なステンドグラス付きの浴室だったのも、モトをたどれば夢野久作の小説『鉄鎚』かねづちの作中にあつた……、

その月の中頃の、或る天気の良い日曜の朝早くであつた。伊奈子は大急ぎの口調で私に電話をかけたが、それは叔父が三日ばかりの予定で、その朝早く大阪に発つたので、これからすぐにF市から二十里ばかりの処にあるU岳の温泉に行こうというのであつた。その温泉は何に利くのか知らないが、いろんな贅沢な設備をしたホテルや、待合兼業まちあいみたようなステキな宿屋しゆくがいくつもあると伊奈子はいつたが、そこで第一等という何とかホテルの大玄関ちやんぐわんに自動車で乗りつけて、特等室附属の浴場に案内された時には、私も生れて初めてなので一寸眼を丸くした。

高い天井のステインドグラスから落ちて来る光線が、青ずんだ湯の底の底まで透きとおして、見事に彫刻した白大理石の浴槽から音も立てずに溢れ出していた。その中に私が先に走り込んで掻きまわすと、その光りが五色の鳥だの金銀の魚だのが入り乱れたように散らばって、その上から一面にモウモウと湧き立つ湯気ゆげのために、四方を鏡で張り詰めた室へやの中が薄暗くなつてしまつた。

……という浴室の描写が元ネタであつたに相違ありませんまい!! 蛇足では御座いますが、この「F

市」はモチロン福岡市で、「U岳の温泉」は、長崎県は島原半島雲仙岳うんせんだけの雲仙温泉を宛てておったのでしような。

I…チヨット、チヨット、若林教授。教授のその決め付け以外の何物でもない独善的千里眼せんりがんには、妖怪のサトリも真つ青なのですが……。実際、あの煮ても焼いても喰えない正木敬之博士けいしでさえ、若林教授のそういう強引な捜査手法には軽い恐怖を覚えておられた様子でした……。

ドンナ難事件でも一旦彼奴きやつの手にかかるとなると、キットどこからか犯人をヒネリ出して来る。そのために彼奴が「迷宮破りめいきやうやが」なぞと新聞に謳うたわれている事実の裏面には、こうした消息が潜ひそんでいるんだよ

……とか……、

元来彼奴はコンナ策略にかけては独特のスゴ腕を持っているんだ。ドンナに身に覚えのない嫌疑者でも、彼奴の手に引つかかって責め立てられて来ると、頭がゴチャゴチャになって、考え切れないような心理状態に陥おちってしまうんだ。とうとうしまいには何が何だかわからなくなったり、到底逃れられぬと観念したり、そうかと思うと慌てた奴は、成程御尤ごもつとも千万せんばんと感心してしまったりして、知りもしない罪を引き受けたりする位だからね。近頃亜米利加アメリカで八釜やましい第

三等の訊問法なんかは屁の河童だ。彼奴の使う手は第一等から第百等まで、ありとあらゆる裏表を使い別けて来るんだから堪らない。

……などと不平をこぼしながら、僕の目の前でチビチビと愚痴っておられましたからね！

まあ、そんな謎の千里眼のことは横に置いて、教授はマンガばかりでなく、ライトノベルやアニメにまでその触手を伸ばしておられたのですか？

W…エエ、そうですとも！ 実は、『化物語』は「オオ！ グレート!!」な画風が持ち味の大暮維人先生のマンガが初見でしたが、話の続きが気になりましたして西尾維新先生の原作小説の方も読破し、もののついでに新房昭之監督のアニメ作品も倍速再生で拝見致しておりましたので……。

I…ハア、そうだったのですか……。ホントに守備範囲が広いんですねえ、若林教授は……。

それでしたら、そろそろ『化物語』の話題から、或る意味では本物の「化け物」かもしれない夢野久作の後半生の方に話を戻したいのですが、宜しいでしょうか？

W…ええ。どうぞ、どうぞ！ 香椎村の開拓地から行方知れずとなったオバケのQ作サンは、それからどのような人生行路をたどっておったのか、どうぞ私奴にお聞かせくださいませ。

夢野久作・化物語 — 壮年編 —

I…それでは、これから夢野久作の後半生を掻い摘かまんでお話ししてみますね。

香椎村の杉山農園を大正3（1914）年に飛び出した久作は、一時は帝都のあたりを徘徊はいかいしていたようです。貧民街に住んで日雇い労働者の群れに身を投じたり、隅田川近くの工場街の一角にも…。また、麴町こうじまちに居たという痕跡18も残っています。

当時のことを、父から直接話を聞いた嫡男の杉山龍丸さんが『わが父・夢野久作』（三一書房、1976年10月刊）に書いておられますので、ここで読み上げてみますね。

彼の一つの話をお話しています。

或るとき、人間らしい社会を求めて、江戸川19の或る町工場に住み込み、労働者の群に入りま  
した。

そして、毎日の昼、隅田川の土手で、昼食の弁当を食べました。

そしたら、隅田川の向こう岸の土手に、毎日昼に来て、土手の斜面に座って、煙草たばこを喫すう人がいました。

数日たつて、どちらともなく、遠くで顔は見えませんでした。彼がこちら側の土手に弁当をもって坐ると、先方がこちらに向つて、手をあげて挨拶をするので、こちらも手をあげて、お返しをするようになりました。

ある春の日、タンポポや、蓮華草の咲く土手に坐ると、相手の人も来て挨拶をして坐り、やおら、煙草を出して喫いだしまして、彼の手許から紫煙が、春の空気に乗つて流れるのが見えました。

夢野久作は、新聞紙に包んだ弁当を開いて、握り飯をつまみ、口に持つてゆこうとして、先方を見ますと、彼に挨拶して煙草を喫っている人の背後から、緑黒色の、作業服を着た人が近づいてゆくのが見えました。

そおつと彼の背後に行つたと思うと、かくしていた背から、ハンマーが出て来て、両手で高くかざして、いきなり煙草を喫っている人の頭を打ちつけました。

ハンマーに打たれた人の頭は、メリ込んだハンマーで半ばへこんだようになったまま、ぐらりと横に、その人は倒れました。

ハンマーの人は、もう一度、ハンマーを頭上に振りかざし、ハンマーは、太陽にキラキラと反映しましたが、倒れた人が動かないのを見て、すぐ、ハンマーを下し、そして、足で、倒れ

た人を蹴りましたが、多分、一撃で絶命していたのでしよう。

倒れた人は、隅田川の斜面を、ころころと転がり落ちて、パシャンと、隅田川の流れに落ちて、桜の花片はなびらの浮いている川面を下の方に流れてゆきました。

ハンマーの人は、流れてゆく死体の様子を見ていましたが、一撃で殺したことを確信したのでしよう。ハンマーを肩にして、向うの土手の下の方に、あつと思う間に姿を消してしまいました。

夢野久作は、お握りを口にもって行ったまま、「あー、あー、あー」と、心に叫ぶだけで、声にならず、呆然と見ていただけでした。

それから、彼は熱に浮されたように、毎日の新聞を、すみからすみまで読んで見ましたが、隅田川に、不審な死体が上ったという記事は、一行も見出すことが出来なくて終りました。

ついに、此の事件は、何の原因で、何処の誰が、誰に如何なる理由で、このように殺されたか判らないままに終わりました。

それで、彼は、自分が求めていた人間らしい社会は、何処にもないということと、また、名もなく、地位もなく、理由もなく、殺され、殺している世間、世界というものがあることと、人間の社会の恐ろしさを知ったと申していました。

W…何処いずこの修羅しゆらの国くにのハナシなので御座いますかな、コレは？ さては、この事件が久作の小

説『鉄鎚』や、『大神博士』に登場してくる敵役の「鉄槌の源太」の素材となっておったのですな。

まさか、作者自身が実際に目撃した殺人事件が元ネタであったとは、正直、驚きましたな。

I…この殴打殺人事件に遭遇したのちに、久作は大正4年6月、本郷の喜福寺で剃髪・出家して、幼名直樹を泰道と改め、法号を「ホウエン」としています。以後はまさに行雲流水の如しで、京都より大和路を歩き、吉野山から大台ヶ原山中に分け入って熊野へと歩を進めるなど、遊行上人のような托鉢修行に明け暮れます。

W…フーム……。佐賀の化猫譚にはじまって、黒田武士の後裔、東亜の国士を父にもつ神童、文学少年、慶応ボーイ、近衛聯隊あがりの陸軍少尉、果樹園の開拓農民、下町の工場労働者、殺人事件の目撃者、等々の裏の顔をもつ托鉢僧……。そのような経歴を初見で見破れたならば、シャーロック・ホルムズ並みの名探偵ということになりましような。

I…夢Qのキャリアはそれだけではありませんよ、若林教授。久作は大正6年、二十八歳で泰道の名のまま還俗しています。翌年、二十九歳で久作の母校でもある大名小学校で教壇に立っていた鎌田クラさんと結婚して東京で家庭を持つと、半年後に故郷・福岡に帰還します。そして後年、クラさんの実家の岳父の跡を襲って三等郵便局・黒門郵便局の局長職にも就いております。

W…アア、それで……。『ドグラ・マグラ』もそうですが、『瓶詰の地獄』や『少女地獄』など書簡体形式の作品が巧みなのは、彼がリアルに手紙の取り扱いのプロでもあったことからののですな。

どうやらお話を伺っておりますと、夢Qは空想ではなく、自身の様々な人生体験をもとに、想像力

をふくらませて筆を走らせるタイプの作家のようすなあ。

I…そうですね。実際、創元推理文庫から出た『日本探偵小説全集4 夢野久作集』には、巻末の付録2「夢野久作の作品について」の中で……、

久作の作品は全て、実際に彼が体験したものがタネになって作られている。

一般の読者や、あるいは出版社の人々で、このことを見抜いた人はほとんどなかったのではあるまいかと、私は思っている。

今度、東京創元社で夢野久作の作品として採用されたものが「瓶詰の地獄」「氷の涯」「ドグラ・マグラ」と決まったと聞いたとき、何か、彼の本質を初めて見抜かれた様な気がした。

……と久作のご長男の杉山龍丸さんが書いておられましたから。若林教授よりも東京創元社の担当者の方が、そのあたりのことについては、とっくの昔に察知しておられたようですよ。

話が少し横道に逸れましたが、そういった訳で夢野久作は還俗して福岡に戻ったのちに、能楽の達人である梅津只圓翁に改めて師事し、喜多流謡曲の教授資格を取得します。そして父・茂丸が発行する雑誌「黑白」に謡曲論や社会時評を掲載し始めるようになります。

W…この頃から、僅かずつではあれ、鉄ではなくペンを握ることができるようになったのですな。遅咲きの蕾がようやくほころび始めたといった処で……。



左から、明治43年、近衛第一連隊見習士官時代の久作。  
大正4年、東京本郷喜福寺にて出家。大正13年、杉山農園で



昭和6年、喜多流能楽舞台に立つ久作

能楽の師、梅津只圓翁



大正10年、九州日報記者時代の久作と、久作の  
文章の師、加藤介春

I…はい。三十歳になると、現在の西日本新聞の前身のひとつでもある玄洋社系の九州日報という新聞に記者として入社します。杉山龍丸さんの『わが父・夢野久作』によると、久作は現在の大濠公園北側にある能楽堂の辺りの旧称・杉土手や、唐人町三丁目の大圓寺付近の旧・榊木屋で一時期暮らして、その後には杉山農園に戻っていたようです。以後、新聞社の主筆兼副社長で詩人でもあった加藤介春のもとで社会部記者として事件記事やルポルタージュを、家庭欄担当記者としては「きのこ会議」や「蛇のおれい」などの可愛らしい創作童話やエッセイ等を執筆するかたわら、三十三歳で長編童話『白髪小僧』（1922年）を上梓すると、その当時興隆し始めた探偵小説雑誌にも作品を発表しはじめます。

そして大正15年、久作にとっては生涯最後の創作童話「ルルとミミ」が4月に新聞連載で完結した翌月に、雑誌「新青年」の懸賞に応募した「あやかしの鼓」が二等に入選したという知らせが届きます。久作はこれを機に作家としてデビューし、プロ作家の仲間入りを果たしたのです。この時、<sup>よわい</sup> 年齢三十七。

W…二十五で立花山の麓を飛び立った不如帰が、干支が一廻りした十二年後に天職を得て故郷の山に再び舞い降りた……との感がありますなあ。

まさに、帰るに如かず、帰り去くに如かず。「フジヨキ、フジヨキヨ！」

I…同じホトトギスの啼き声なら、「フジヨキ、フジヨキヨ！」よりも、「特許許可局、トッキョキヨカキヨク！」か「天辺駆けたか、テッペンカケタカ！」の方が、僕にはシツクリくるんですけ

どねえ。

まあ、今もって昔の記憶がおぼつかない僕の場合は、「鳴かぬなら、鳴くまで忘れる、ホトトギス」って感じですけど……。若林教授の場合はキット、「鳴くまで刃物で、ホトトギス」でしょうかね？

W…アンマリなご冗談ですが、私奴にはやはり、「不如帰、不如帰去！」の方が支那の故事にも通じておってシツクリきますな。もともと、「あやかしの鼓」の懸賞結果を香椎村の山の中で首を長くくして待っていた時の夢Qには、ホトトギスの囀りも「テッペン（二位）書けたか、テッペン欠けたか？」に聞こえておったのやも知れませぬが……。

I…でも、「あやかし」の受賞を機にプロデビューを果たせたのですから、ホントに僕らも嬉しい限りですね。この時、初めてペンネーム「夢野久作」を名乗り、それから亡くなるまでの十年余、主に自宅書斎の夢久庵で規則正しい生活を送りながら、後に単行本、傑作選、著作集、そして片手に余る出版社から刊行された全集に収録されることになる名著の数々を執筆し続けたのです。

久作は大正15（1926）年5月8日に「あやかしの鼓」二等当選の手紙を開封した妻のクラさんから吉報を耳にするのですが、その三日後の5月11日には早速、プロ作家として初めての筆を執っております。

その作品は狂人を主人公とした一風変わった探偵小説だったのですが、一心不乱に筆を走らせて一ヶ月後の6月12日には清書に入り、8月21日に脱稿。その日のうちに「狂人の解放治療」と題し

た原稿を博文館の森下雨村宛に送っています。しかし、この原稿は千百余枚もの分量があつて、お蔵入りに。それでも諦めなかつた久作は昭和5年1月にタイトルを変えると、作家生活のほぼ全期間に亘つて「千枚もの原稿」と称して加筆、改稿を続けて、昭和10（1935）年1月15日に『ドグラ・マグラ』と銘打つて松柏館書店から刊行します。曰く、「私は之を書く為に生きてきたのだ」の告白とともに……。

刷り立てのインクのおう初版本を手にした久作は、それまで一度も自分の作品を読ませたことがなかつた息子に『ドグラ・マグラ』を手渡して、次のように胸のうちを明かしたそうです。

「龍丸、とうとう俺は、世界一の長篇探偵小説を書くことができた。おそらく、世界の傑作となるだろう」と。

W…おお、ついに我らの『ドグラ・マグラ』がその産声を……。

I…そして『ドグラ・マグラ』発刊の翌年、昭和11（1936）年2月19日、久作は福岡を発ち上京。前年7月に他界した父・茂丸の生前の後始末のために、継母・幾茂が暮らしていた東京渋谷区南平台の杉山邸に逗留します。翌3月11日、在京の茂丸の支援者の来訪があり、葬儀や諸々のこと金銭面の整理がついたとの報告を受けます。

ご長男の杉山龍丸さんが編纂された『夢野久作の日記』の後半部「夢野久作の終焉」にはその時  
のことが次のように記されています。

父（「夢野久作」）は、林社長に丁寧な挨拶をしますと、林社長は、祖父茂丸の死去以来、葬儀委員その他、全ての始末の会計主任をして居られたので、父の前に、葬儀関係の帳簿を出されたそうです。父はにこやかに、

「やっと、終わりましたな、御苦労さまでした。

いやあーこれで、あつはつはつはー、」

と、両手をあげて、大笑いした形になり、そのまま、すんと、背後に倒れました。

林社長は、両手をあげて、笑いながら、万歳をするような形であったので、バランスを崩して倒れたのかと瞬間思われたそうですが、そのまま起きて来ませんので、傍に寄って、

「杉山さん！　どうかされたのですかっ？」

と叫んでも、何の返事もなく、倒れたままなので、仰天して、隣室に、

「お、奥様っ！　杉山さんがっ！」

と叫ぶと同時に、祖母と瑞枝叔母が、隣の襖を開いて飛び込んできました。父の様子を見るや、祖母が、

「瑞枝さん、早よ、庭の雪をもつて来なさいっ！」

と叫び、瑞枝叔母は、足袋裸足のまま庭に馳せ下り、手一杯、二・二六事件の日に降った雪を持って来て、父の額にあてましたが、父は蘇生せず、見る見る体温が下り、そのまま昇天しました。

W… …… 。我らの生みの親にも等しい夢野久作は、旅先の帝都で頓死しておったのですか。 …… 状況から察するに、心臓麻痺か脳卒中で御座いますな、コレは。否、 …… ご家族の方が時をおかず、額に雪をあてている処をみると頭の方ですか？ しかも、久作の妹さんが迷わず頭部を冷やす応急処置に入ったということは、前兆の初期症状が元からあった筈。否々、それだけでは瑞枝さんの動きが機敏すぎますなあ。サテは、前年に他界したという父親の茂丸も脳卒中を患っておったので御座いましょうか？ たしか、久作の祖父・灌園も中風が重篤化して三ヶ月後に亡くなったと貴方様は仰っておられたようですが… 。あるいは、杉山家は脳卒中が起きやすい家系だったのでは？

I… 流石は古今無双の名法医学者、若林教授ですね。茂丸も久作も、死因は脳溢血だったそうです。W… 左様でしたか… 。「脳髄は物を考える処に非ず」と主張していたドグラ・マグラの作者自身が、脳髄の反乱に遭って、笑いながら脳溢血で逝ってしまったのですか… 。

I… 脳髄の反乱… 。そういう捉え方もあるのかも知れませんが… 。

こうして夢野久作は『ドグラ・マグラ』の謎解きの答えを一切他者に漏らさぬまま、享年四十八で彼岸へと旅立ったのです。

## 注解

(18) 杉山龍丸編『夢野久作の日記』の末尾の年譜によると、久作は大正6年「僧名泰道のまま還俗す。継母の願いにより杉山家を継承し、杉山農園に戻る。」とされている。後年発見された、前年の異母妹・綾子に宛てた大正5年12月12日付の手紙によると、その際の差出人住所および郵便局の消し印は「東京府麹町」となっている。大正4年から6年までは謎とされている久作の放浪時代だが、その後半の一時期には東京府の麹町に住んでいた形跡がある。

なお、この手紙は成蹊大学文学部の浜田雄介教授が2013年に発表された『夢野久作書簡 翻刻』や、葦書房刊『夢野久作著作集6 随筆・歌・書簡』（2001年7月）に収載されている。

(19) 江戸川は神田川下流域の呼称。神田川は、東京都を流れる荒川水系の支流の一級河川。井の頭池に源を発して東へ流れ、両国橋脇で隅田川に合流する。江戸の頃、神田川の上流を神田上水、下流（神田川の、文京区関口から千代田区飯田橋辺りにかけての流域）を江戸川と呼んだ。

(20) 夢野久作の妻、杉山クラは明治28（1895）年10月30日生まれ。鎌田昌一とミチの三女。夢野久作の大正15年1月25日の日記には「余は社に、久良は子供を迎へに通町へ。」とあり、久良とも表記されていたことがわかる。クラの実家の鎌田家は久作の実母・ホトリの実家の大島家とは数軒隣りで、当時の住所表記で福岡市荒戸町三十四番地。杉山龍丸著「西の幻想作家―夢野久作のこと―」によれば、久作の妹・瑞枝もクラと同年生まれで、二人は小学生時代からの友人だった。同じく杉山龍丸の『わが父・夢野久作』によれば、早生まれの瑞枝とクラは一級違いの親友で、ともに荒戸町（現・西公園下）の福岡師範学校附属小学校（現在の福岡教育大学附属福岡小学校）へ通い、帰りには



大正7年、結婚記念写真

杉山家に寄って一緒に勉強することもあったという。

クラは福岡女子師範学校を卒業後、久作の母校・大名小学校で教壇に立っている。親友の「お兄様」である久作との結婚を機に退職後は三人の息子（龍丸、鐵児、參緑）に恵まれて、主婦業とともに農園仕事や養蚕の内職に加えて、久作の原稿の清書を手伝った。大正15年、杉山農園に届いた「あやかしの鼓」懸賞当選の手紙を開封すると、クラは喜び駆けながら久作に見せにいったといわれている。

昭和11年、久作に先立たれた後は、夫が残した農園を辛抱強く維持し続けた。昭和62年5月16日、膀胱癌にて他界。

「今でも面影は残っているが、評判の美人だった。そして女優クララ・キンボール・ヤングに似ていることから、愛称「クララさん」と呼ばれていた。何もかも遠い昔のことなので、……」

これは、久作の義弟・石井俊二（たみ子の夫）とは六高、九大医学部の学生時代からのクラスメイトだった中村京亮氏の言葉（葦書房刊『夢野久作著作集2』月報1「杉山さんの思い出」1979年2月、より）。

(21) 夢野久作は「新青年」の創作探偵小説に応募した「あやかしの鼓」が二等に当選したことを、発行元・博文館の森下雨村からの来信によって知る。「あやかしの鼓」は、山本禾太郎の「窓」と二等同位で、この時は一等受賞はなかった。

(22) 出典は、39頁2〜3行目の「夢野久作の作品について」と同じ。

(23) 夢野久作の終焉については、久作の妹・石井たみ子さんの、次のような回想もある。以下は、葦書房刊『夢野久作著作集2』月報1「兄と私」1979年2月、より抜粋。



昭和6年、杉山農園で

〈前略〉女学校一二年の時だった。

このあとの頃、父の従妹のおすがさんが私に付添って下さったが、兄が母の子でないということを教えられた。私はすごく悲しく、そしてひどく兄が可哀そうで、今でも我儘を云ったりしたことが済まなく思い返された。

石井に嫁して兄と同じ福岡に住み、大人として付合うようになってからは、そんな影は失くなくて、云いたいことを云って兄に甘えていたようである。〈中略〉

東京青山に住んでいた私が、「お兄様がお倒れになった。」という姉の電話で、前掛けを外しただけでタクシーに乗って南平台の家に駆け付けた時、兄は母の膝の上に仰むいて、あの大きな目を見開いたまま空を見ていた。母はその頭を抱くようにして私を見上げ、「もう、つまらんとはい、つまらんとはい」と顔を振って悶えていた。姉は兄の頭を冷やさねばと思つてか、台所でせわしなく水を割る音を立てていた。

兄は前の晩徹夜で原稿を書いていた由。机の上には外国たばこの吸殻が灰皿に溢れていた由。朝食をとり朝湯に入つて、和服に袴の姿になつて外出（喜多能楽堂ではなかるうか）しようとした矢先、中島徳松氏の秘書が訪ねて見えたのに会う為、客間に出て、「いらつしやい」と椅子に腰を掛けようとした途端、手を空に指し延べ床にずり落ちた。その方は、「変なことをなさる。」と思ひ、次いで「これは！」と思つて「どなたか！」と大声を上げられた由。まったく一瞬間のことであつた。

横浜の診療所へ行つていた石井に電話したら丁度手術を終わつた所の主人が出た。「お兄様が亡くなりました。」と伝えると、「しまった。」と主人は一声云つた。すぐ駆けつけてくれた時は稲垣博士も見えていたが、もうどう施す術もなく、兄はのべた寢床に静かに目を閉じていた。私  
は三十二、兄は四十八と思う。勿論数え年である。

## 直樹おにいさまの思い出

I…ここで生前の夢野久作の人物像について、少し補足しておきます。

明治37（1904）年、久作十五歳、数え年では十六の日のこと。その年は2月に日本とロシアが全面戦争に突入していました。祖国存亡の危機が迫った戦時下に久し振りに福岡に帰ってきた父・茂丸から、将来、お前は何になりたいかと言われ、直樹は問われます。

以下は、夢野久作の「父杉山茂丸を語る」<sup>24</sup>にあつた、その時の親子のやり取りです……。

中学に通い始めると間もなく私は宗教、文学、音楽、美術の研究に凝り、テニスに夢中になった。明らかに当時のモボ兼、文学青年となつてしまった。

その十六歳の時、久し振りに帰省した父から将来の目的を問われて、

「私は文学で立ちたいと思います」

と答えた時の父の不愉快そうな顔を今でも忘れない。あんまりイヤな顔をして黙っていたの

で私はタマラなくなつて、

「そんなら美術家になります」

と云つたら父がイヨイヨ不愉快な顔になつて私の顔をジッと見たのでこつちもイヨイヨたまらなくなつてしまつた。

「そんなら身体を丈夫にするために農業をやりませう」

と云つたら父の顔が忽ち解けて、見る見るニコニコと笑い出したので、私はホツとしたものであつた。

「フン。農業なら賛成する。何故かというと貴様は現在、神経過敏の固まりみたよになつてゐる。先刻から俺の顔色を見て、ヤタラに目的を変更してゐるようであるが、そんなガラシのない神経過敏では、今の生存競争の世の中に當つて勝てるものでない。芸術とか、宗教とかいふものは神経過敏のオモチヤみたよなもので、そんなものに熱中するとイヨイヨ神経過敏になつて、人間万事が腹が立つたり、悲しくなつたりするものだ。その神経過敏は農業でもやつて身体を壮健にすれば自から解消するものだ。だから万事はその上で考えて見る事にせよ。現在の日本は露西亞に取られようとしてゐる。日本が亡びたら文学も絵もあつたものでない。そのサ中に早く歸つて頂戴なナンテ呑気な事が云つておられるか。雪舟の虎の絵を見せても、露西亞兵は退却しやしないぞ」

といったような事を長々と訓戒してくれた。



大正11年、長編童話『白髪小僧』を杉山萌圓名義で出版した。久作は作中のイラストも描いている

私は父の熱誠に圧伏されながらも、生涯の楽しみを奪われた悲しさに涙をポトポトと落しながら聞いていた。

……このように夢Qは、若い頃には真剣に絵描きになろうかと考えていたくらいのも母親譲りの画才を持つておりまして、久作が生前に描いたスケッチ画<sup>26</sup>の写しが宮崎宮ちかくの箱崎水族館喫茶室<sup>26</sup>には展示してあります。また、中学時代の久作は黒岩<sup>くろいわ</sup>涙香<sup>なみか</sup>やエドガー・アラン・ポーに傾倒する探偵小説愛好家でした。後年、父の訓戒に逆らってプロの作家となつてからは、「いいものさえ書けば、東京であろうと田舎におろうと変わらんのだ。だから俺は福岡におつて、東京の人を惹きつける」と家族に話していたように、福岡を離れずに傑作を生み続けます。

妹・瑞枝<sup>みずえ</sup>の小学生時代からの幼馴染みだった愛妻・クラさんとの結婚生活では三人の男の子に恵まれます。終日、書齋で机に向かいながらも、夕食の時には子供たちと一緒に食卓を囲み、孤独な幼少期に夢見た一家団欒<sup>だんらん</sup>の時間<sup>27</sup>を楽しんでいたようです。

長男の龍丸さんや次男の鐵児<sup>てつじ</sup>さんが香椎小学校で野球を始める年頃になると、久作本人が少年野球に熱を上げてしまいます。一時期は放課後になると毎日のように学校の運動場に出掛けていつてとうとう校長先生から「貴方<sup>あなた</sup>が来てお菓子をやるものだから、みんな試験勉強をやらたがらない。もう来ないでくれ」と言われて、しょんぼりバットを引きずつて帰つていったとか……。

また、久作は酒を一滴も飲めないかわりに外を出歩くのが好きな性分だったようです。「夢野久

作全集7』（三二書房）の巻末の解説対談で、ご長男が「その当時よく歩いたのは、昔の宗像地区です。あのへんの所だとか、犬鳴、それから志賀島、太宰府、こういう所を引っぱり出されてよく歩きましたね」と語っておられます。そういった時の出立ちは、白の作業服に淡いクリーム色のレインコート、黒のベレー帽姿で、下駄履きでひよこひよこ歩いていたと……。

そのような香椎村での暮らしを満喫していた久作が、たまにフラリと博多に現れると一変、街中のお菓子屋、ぜんざい屋、喫茶店など主だった甘味処の味を知り尽くしていた。恐るべき甘党だったと伝わっています。そういう時はマフラーを首に巻き、地球と渾名された程の大きな頭が入る特注サイズの帽子を幾種類も冠りわけ、ベルベットのハイカラな服を着こなすスラリとしたノッポさんでしたから、往来の人々の目を引いたようです。西中洲の「カフェーブラジル」や東中洲の西大橋が架かる那珂川河畔のオールデコ調の喫茶店「ブラジレイロ」にフラリと現れて、大好物のパンと珈琲を注文してゴールデンバットを薫らせていると、博多の人々は「福岡一ハイカラな男」などと評していたのですよ……。



セーターは妻の手編み

W・ひとつ伺いたいのですが、夢野久作という筆名は方言の「夢の久作」から採っておったので御座いませうか？ たしか博多弁では「夢の久作サンのごたーる」などと云っては、昼行燈とでもいおうか、現実の問題に対しては何処かピントのはずれたような考えや行動をする者を指して使っておったように記憶しておるのですが……。

I…モチロンそういう意味もありましょうが、一方ではもう少し意味合いに深みのある方言というか、昔の福岡博多の人でないとか分りにくい感覚かもしれませんが、その言葉の奥底には多少の愛情が込められていた方言だったのですよ。千葉県出身の若林教授にはチョット伝わりにくいかも知れませんが、「夢の久作」という博多弁は、一般の人々が現実の生活で生き抜くために自己中心的な計算や利害にとらわれた行動をとりがちなのに対して、理想主義というか、夢のような現実離れしたことを考えている人のことを指しても使われていた言葉なのです。

そのような「夢の久作サン」たちの中には、周囲の人々を巻きこみながら奇想天外で何か突拍子もないユニークな発想法を編み出したり、持ち前の行動力で常人には考えられないようなことをやってのける人も含まれていたのです。近年の例でいえばペシャワール会の中村哲さんや、ジャンルは違いますが芸能界で活躍している人たちなども、そんな「夢の久作サン」になるのかもしれないですね。

福岡に住んでいる人たちは割と、そんな夢見がちの「夢の久作サン」のヒョッコたちを卵の頃から温めるのが好きですね。いちがいに馬鹿にしたり阿呆あほうといつて突き放したりせず、駄目です元々だからと笑って応援してくれる気質というか精神的風土がここにはあるのですよ。

久作の父・茂丸が、息子が書いた原稿を読んでみて、「ふーん、夢の久作の書いたごたくる小説じゃねー」と感想を漏らしたそうですが、それに気を良くした久作が自分のペンネームに決めたと伝わっていますし、茂丸自身にしても大国ロシアを相手に小国日本が一戦交えて勝利できる策謀を、

洋の東西、新旧大陸にまたがって張り巡らせていたっていうだけでも、並外れた。夢の久作サン。だったのだろうと僕は思いますがね。

さらに、久作の嫡男の龍丸さんともなると、「杉山家はアジアのため自分一代で潰す覚悟だ」と豪語しながら、東インド会社と大英帝国による350年の支配から独立直後の大飢餓を救うためにインド北西部の広大な不毛の大地を緑の沃野に変えようと一人で奔走しておられたのですから、杉山家の人々は久作に限らず、みんな根っからの。夢の久作サン。の血筋なのですよ、キット……。

W…皆が皆、規格外の。夢の久作サン。だったのですなあ。

I…最後に、久作の短編『瓶詰の地獄』のアヤ子のモデルと噂された喜多君子さんへのインタビューが葦書房刊『夢野久作著作集1』の「月報5」に収録されていますので、そこから抜粋して読み上げてみますね。喜多さんのお母さんが例のシャンシャンで、旧姓安田君子さんは夢野久作こと杉山直樹とはイトコの間柄にあたられる方です。

〈インタビュー〉

直樹おにいさまの思い出

喜多君子（語り手）

——夢野久作との出会いはいつ頃になりますか。

「私と久作とは年がちょうど二十違いますので、はっきり意識するようになったのは福岡高等

女学校を卒業してからでございます。大正十五年頃でしょう。それ以前は、私の家によく遊びに来るおにいさまというぐらいの意識しかなかったですね。ただ、久作だけは杉山家の中では特別な存在で、小さい頃からずっと久作のことを、直樹おにいさまと呼んでいました。女学校時代は声楽家を志していましたが、卒業後は声楽の道からなんとなく離れてしまいました。ちよどここの頃、久作から能の稽古けいこに引き込まれました」

——稽古の様子はいかがでしたでしょうか。

「久作の能楽に対する情熱は特別で、それにとっても世話好きでしたから、『とにかくおもしろいからやってみなさい』という風で自分が謡うたいをやり、私に小鼓を打たせました。いつも稽古の前には、自分で買ってきた嵐洲屋なみすや（福岡市中央区天神）の黒羊羹ようかんをまず一緒に開け、いっしょに食べるんです。甘い物が大好物でしたから『うまいねえ』とひと言あってから、おもむろに稽古にはいるんでございます。謡の本を前に置いて小鼓の打ち方を細かく教わり、それから本を見ずに久作の謡に合わせて小鼓を打ちました」

——能の稽古では小鼓を主に教えてもらったのですか。

「小鼓だけを教わりました。能楽については梅津只圓直伝ですから相当に自信を持っていたようです。能への熱が高じて、小鼓も久作本人が作ったりしていました。でも、久作の作った小鼓は使えませんでした。道具職人が作るようにはいかなかったようですね」（中略）

——稽古を通して久作から学んだことも多かったのではないですか。

「はい、それはもういろいろなことを教えてもらいました。女学校を卒業してから昭和四年まで、結婚のために上京するまでの三年半の間が久作を一番身近に感じた時期でした。稽古を通してというよりも普段の生活の中で大切なことを言ってくれました。教えることが好きな性格だったようです。女性としての生き方——『金杉瑞枝（久作の妹）のような女性になりなさい』とよく言われました——だとか、人間の精神面についても。今でも印象に残っているのは、『どんなことがあっても、死ぬ』ということを決断の手段としてはいけない』『道端に居る何でもない人たち、日陰の部分をよく見なさい。そういう人たちの中にも世の中を動かしている人がいるんだよ』といったことばですね。そのときは聞き流していましたが、結婚してからその後の私の大きな支えとなったように思います」

——他に久作という人物について印象に残っていることはありませんか。

「そのときどきの気分や場所によっていろんな服装をする人でした。たとえば、能の稽古に来るときは袴はかまを着用して下駄げたをはいていましたし、そうかと思うとボロを着てルンペンを装ったり、キャメルのコートに帽子をかぶって紳士然としてみたり、セーターを着てハーモニカを吹いたりと様々でした。ハイカラさんでしたね」〔中略〕

——東京でも久作とはよく会いましたか。

「はい。久作は上京してくるとよく石井俊二（医師）・たみ子（久作の妹）夫妻の家に遊びに来ました。マージャンが好きでしたから、私もよく呼ばれ四人でテーブルを囲みました。あの

二・二六事件の日もマージャンをしていたのを憶えています。大雪の日で、屋根から雪が落ちたのか大きな音がしましたから、あの時のことははっきりと憶えています。この十日ほど後の三月十一日に急逝しますが、その間、何度か好きなコーヒーを飲みに行きました」

——久作の文学作品の中でどれが印象深いですか。

「作家としての夢野久作を意識したことはあまりございませんので、その作品も多くを読んではいないのです。身近な人や場所が作品中に登場するということ言えば、『あやかしの鼓』『少女地獄』と『ゐなか、の、じけん』ぐらいでしょうか。小鼓を教わっていましたから、今『あやかしの鼓』という小説を書いているという話をよくしてくれました。『少女地獄』には石井俊二さんの病院で働いていた看護婦さんが出てきますし、『ゐなか、の、じけん』の舞台は福岡の香椎あたりですから……。ただ、私の中では作品よりも、兄としての杉山直樹という人物のほうがはるかに印象深いのでございます」

(故喜多実氏夫人。聞き手・葦書房 小野)

W…スミマセンが、夢野久作の逸話をアレコレ伺っておるうちに、かえってその人物像が掴めなくなってしまうのですが……。

I…そうでしょうねー。

W…要するに、幾つもの能面ベルソナを隠し持った鶴ねえなのですか、夢野久作という名の天才は……。

### 注解

(24) ちくま文庫の『夢野久作全集11』に収録。

(25) 杉山家には14歳頃の夢野久作が描いたスケッチ画が残されている。その中には明治36年8月28日の日付入の「田川郡渡船風景」や同年11月16日の日付入「田川郡糸田」および17日の日付入「汽車中」という作品がある（福岡県立図書館「杉山文庫」に寄託）。久作がこの年の夏から秋にかけて筑豊地方で描いたスケッチ画を残していることは、当時、田川郡の糸田町にあった豊国炭鉱の職員住宅で寮母として働いていた実母・ホトリの許を訪れていた証といえるかもしれない。現在、

これらのスケッチ画の複製は福岡市中央区の須崎公園の県立美術館喫茶室や東区箱崎の筥崎宮ちかくの箱崎水族館喫茶室で常設展示されている。(26) 筥崎宮から程近い箱崎水族館喫茶室は、『ドグラ・マグラ』に登場する筥崎水族館の当時の館長・故久保田知俊氏の曾孫にあたる花田典子さんと夫の宏毅さんが経営する喫茶室。花田さん夫妻は須崎公園内の県立美術館喫茶室も経営されており、こちらには『ドグラ・マグラ』の時代（大正期）に九州帝国大学で実際に使用されていた什器類（棚や机）も展示保存されている。前述の中学時代のスケッチ画の複製展示とともに、お土産用のトートバッグやTシャツなどの夢Q関連グッズも置



上が「田川郡渡船風景」、下左が県立美術館喫茶室、下右が箱崎水族館喫茶室

かれており、久作ファンにとつての隠れ家的な「ユメノ聖地」となっている。

(27) 杉山龍丸が香椎の夢久庵での夕食後の一家団欒を回想した文章が残っている。1979年3月に西日本図書館コンサルタント協会から刊行された『ルルとミミ』の着色切り絵集（黒木やす子）に寄せた序文から抜粋。

夢野久作は、とくに童話が好きで、私に、アラビアンナイトの物語りや、アンデルセンの童話、ロシアの童話等を与えてくれました。

また、夕食のすんだあと、弟の鉄児や参緑をひざに抱いて、あの大きな長い顔を大きな手でなでまわしながら、ぼつり、ぼつりと、民話や童話を話してくれるときの表情、そして、その話を聞いての私達の驚きと喜び、笑い。

とくに、母のクラが腹を抱えてあまり笑ったので、食事ができなくなったりしたことがあり、その様子が今も記憶にのこっています。

童話は、私達が生れて、育ってゆき、成人になってゆくときのいちばん大切な子供の時代に、人間として生きる現実や意外性、世界、大宇宙の真理、そして神秘といったものへの考え方生き方をはぐくむ最も大切なものであると彼は考えていたようで、それは、小説や、その他の創作よりも、大変難しいものであると思っているようでした。

私は、祖父や、祖母から寝物語りに話を聞く機会がありませんでしたので、父から夕食のあとの話を聞くとすぐ布団にもぐりこみましたが、眠りながら、夢の中で、ようし、私も童話をつくって見よう、と思ったこともありました。

(28) 以下は、『夢野久作「快人Q作ランド」』（夢野久作展実行委員会／1994年刊）所収の「父を語る 三苦鉄児氏聞き書き」からの引用（インタビューを受けている三苦鉄児氏は、夢野久作の二男）。

——夫婦ケンカとか、たまにはなさってました？

三苦 はあ（苦笑）。私が覚えているのは二度です。父がキミさん（久作の美貌のいとこ。「瓶詰地獄」のモデルとも言われる）に指輪を贈ったのを母が知りましてね、怒ってました。もう一つは、父が九州日報を辞めて祖父に月二百円の送金を頼んだことです。母は、幾茂お祖母さんから色々言われるのが嫌だから、自分が教師をしてでもいい、なんとか自分達でやっていきたいと言って泣きよりましたね。

このインタビュで話題に上った、キミさん<sup>が</sup>喜多家に嫁いだ旧姓・安田君子さんで、久作の叔母・薫の末娘。なお、安田薫こと旧姓・杉山薫は『押絵の奇蹟』のモデルとされる。

(29) 『少女地獄』の「何んでも無い」に登場するヒロイン・姫草ユリ子のモデル。

(30) 喜多実は能楽師、シテ方<sup>かた</sup>・喜多流十五世宗家。夢野久作にとつては、大正4（1915）年以前の師友である。久作が親愛の情を込めて綴ったエッセイに「みのある君の悪口」（1929年）と、「実さんの精神分析」（1932年）がある。喜多実の娘である喜多道枝さんは、のちにシリーズ化される世界名作劇場・第1作アニメ『フランダーズの犬』で、主役のネロ、幼馴染の少女アロア、ネロの祖父、アロアの母、スレットおばさん、ジョルジュ、ポール、ナレーター<sup>の</sup>八役を、一人で演じ切った伝説的声優（喜多道枝<sup>で</sup>検索するとYouTubeで視聴できる）。同作品の最終話の視聴率は30・1%を記録し、特にルーベンスの絵の下でネロが、「パトラッシュ、疲れたろう。僕も疲れたんだ。なんだか、とても眠いんだ」と呟き天国へと旅立つラストシーンには多くの人々が涙した。当時は喰えない役者の吹き溜まり扱いで舞台・映画・TV俳優からは一段下に見られていた声優界だったが、そこにシテ方・喜多流能楽宗家の令嬢である喜多道枝さんが舞い降りてきて圧倒的な結果を示したことで、その後の声優たちの社会的な評価や、ひいてはアニメ界のレベルそのものを引き上げることに繋がった。

付論4 黙して語らず 廣田弘毅、最後の外交戦

極東国際軍事裁判（以下、東京裁判）において、いわゆる「A級戦犯」28人の1人として起訴された廣田弘毅は、憲法上の統帥権とうすいけんの主体であった天皇に戦争責任の累が及ぶことを最も恐れ警戒し、公判期間中は一言の弁明もしなかったというのが筆者の見立てである。

東京裁判においてA級戦犯が起訴された1946年4月29日は昭和天皇の生誕を祝す天長節てんちようせつと重なっていた。この日付けの暗合から天皇を人質に取られていると理解した廣田は、この軍事裁判を外交官としての己の生涯最後の外交戦と思い定めて、「黙して語らず」の無抵抗主義を法廷戦術とした。

以下、東京裁判の審議日程を列挙する。

A…(1945年) 12月8日 東京裁判の開廷準備として国際検察局を設置。

B…(1946年) 4月17日 A級戦犯28名を確定。

C…(1946年) 4月29日 A級戦犯28名を起訴。

D…(1946年) 5月3日 開廷。

E…(1946年) 6月4日 検察側立証開始。

F…(1947年) 2月24日 弁護側反証開始。

G…(1948年) 8月3日 判決文の翻訳開始。

外交畑出身の廣田である。これらの日程を知らされた時、瞬時に、その日付の意味することに気付いただろう。

A…12月8日(1941年) 真珠湾攻撃。対米英戦争宣戦布告。

B…4月17日(1895年) 日清戦争講和条約(下関条約)調印。

C…4月29日(1901年) 天長節。昭和天皇生誕。

D…5月3日(1928年) 濟南事件。中国での呼称は五・三惨案。中国人外交官虐殺事件。

E…6月4日(1928年) 張作霖爆殺事件。

F…2月24日(1933年) 国際連盟総会でリットン調査団報告書を採択。即日、日本が連盟脱退。

G…8月3日(1935年) 天皇機関説事件。日本政府が国体明徴<sup>めいちよう</sup>声明。

廣田はこれらの日付を目にして、Aからはアメリカの怒りを、BとDからは中華民國の思惑を、そしてCからはこの裁判が天皇の身代り裁判である状況を自覚する。また、Eからは奉天軍閥の息

子・張學良の怒りが滲<sup>に</sup>んでいたし、Fからは日露戦争講和における仲介の労がなんら報いられることもなく、満洲利権から締め出された米国の恨み顔が覗<sup>のぞ</sup>いていた。Gについては右翼の台頭に拍車<sup>が掛</sup>かった、美濃部達吉の事件を引き合いに出して、連合国側が戦前の日本の国体の有り様に強烈な不満を表明しているといったところだろうか。

公判中に廣田は、「量刑というものは情状で軽くなるものでしょうか」と弁護人に尋ねている。「そうです」と答えられると、「困ったナァ、長くつながれるのが一番困る」とこぼしている。1948年11月2日投開票の米国大統領選挙の日程が頭に入っていた廣田だからこそ、裁判の審理が長引くことを「一番困る」と漏らしたのである。起訴事実<sup>に</sup>徹底抗戦すれば死罪を免れる公算が一番あった文官の廣田弘毅だけが、皮肉にもワシントンに目を向けて、時間との闘いに挑んでいたのだ。廣田は米国大統領選挙の結果や、アメリカの有権者が選挙期間中に共和党側の選挙キャンペーンや世論誘導に乗って、どのような動きを示し始めるのか、その動向を気にしていたものと筆者には思われる。

廣田としては、現職の大統領トルーマンが天皇の処刑まで望んではないことは理解できたであろう。しかし、次の大統領はどうだったろうか。天皇の起訴問題に関しては不問に付す姿勢を示していたトルーマン政権が、次の選挙結果によっては一夜にして瓦解する恐れもあったのだ。もし、共和党の相手側候補トマス・デューイが選挙期間中にトルーマンの対日占領政策を弱腰と非難し、「敗戦国の元首には極刑を！」とアメリカ国民を扇動する選挙戦術にでたら？ これこそが、廣田

にとつて最大の恐怖だった。外交機密は死んでも口を割らない外交官としての矜持きよじを持つ廣田が、その胸のうちを明かすことは最後までなかったろうが、廣田としてはトルーマン政権下での東京裁判の、一日も早い判決の言い渡しこそ最優先の外交課題と思ひ定めて、法廷では無抵抗主義をつらぬく覚悟をしていたのだらう。

その年、1948年の大統領選挙は米国史上最大の番狂わせが起きた選挙と歴史家たちが口を揃える結果となった。投票前の世論調査では挑戦者候補のデューイが圧勝するとみられていたが、開票結果は一晩たつても確定せず、勝敗の行方は翌11月3日にまでもつれこんだ。現地の一部の新聞社は痺れを切らして3日の朝刊に『デューイ、トルーマンを破る』という大見出しを掲げた。しかしこれが世紀の大誤報であつたと昼過ぎに判明すると、トルーマンは歓びを爆發させた。こうして大統領選挙の勝敗の帰趨きすうが決した頃合いには、日付変更線の向こう側では11月4日に日付が改まらうとしていた。11月4日は東京裁判の判決言い渡しの開始日だった。

判決言い渡しが始された時、廣田は深く安堵し、自分だけが知っていた外交戦の勝利を噛みしめただらう。余人には計り得ない智略をもつて陛下の盾となり、公判中は黙して語らずで二年以上も理不尽な裁判に臨み続けた元宰相は、他の死刑囚とともに毅然と刑に服したという。

## 付論5 廣田の隣人たち 杉原千畝とシロタ一家

廣田弘毅と静子夫人は、相思相愛のおしどり夫婦として知られていた。廣田は高橋是清の愛娘や三菱財閥の令嬢との縁談話を断って幼馴染の静子と結婚した。

1946（昭和21）年5月17日、巣鴨拘置所で廣田と面会した静子は、翌ふつぎよう弘暁に藤沢市くげぬま鶴沼の別邸で毒を仰いで自決した。死を決意していた夫の未練を断つためだった。彼女は子供らに「パパを楽にしてあげる方法が一つあるわ」と言い残していたという。

妻が亡くなったことを知らされたあとも、廣田は拘置所から家族に手紙を送る際は最後まで「最愛の妻 静子」と書き続けた。のちに、アメリカ国防総省が公開した膨大な記録映像をもとに小林正樹監督が製作したドキュメンタリー映画『東京裁判』（1983年）には、「被告、廣田弘毅を絞首刑に処す」と判決を言い渡された廣田が、イヤホンを外して二階の傍聴席にいた二人の愛娘に軽く会釈をする姿が映し出されている。

\*

また、次のような逸話もある。外交官時代の廣田弘毅がソ連問題のエキスパートとして高く実力を評価していた後輩がいた。その後輩は在モスクワ日本大使館への赴任が決まったが、満洲国外交部時代の卓越した諜報手腕を恐れたソ連から入国を拒否される。ペルソナ・ノン・グラータ（好ましからざる人物）条項を發動されたのだ。やむなく外務省はバルト海沿岸国の領事館を彼の新たな任地と定めた。

この外交官こそ、WWⅡの戦時下においてナチス・ドイツの迫害から逃れるためにソ連—日本經由で第三国への出国を希望するユダヤ系市民に、6000枚の命のビザを発給し続けた駐リトアニア領事・杉原千畝その人であった。戦後20年以上たってから、東洋のシンドラックとしてスポーツライトを浴びるようになった杉原だが、彼が長男を弘樹と名付けるほど廣田に尊崇の念を抱いていた（廣田に憚って「樹」の字を当てた）ことは世間ではほとんど知られていない。

敗戦によって杉原はソ連軍に身柄を拘束されてシベリアに抑留されたが、1947（昭和22）年に釈放されて帰国の途に就く。そして博多港で故国の土を踏んだ杉原が向かった先が、すでに巢鴨プリズンに拘置されていた廣田が逮捕直前まで住んでいた神奈川県藤沢市の鶴沼だった。廣田を慕っていた杉原は鶴沼に居を構えると、30年以上もそこで暮らし続けた。

杉原の願いも虚しく廣田は不帰の客となったが、生前の廣田にも一人のユダヤ人少女の窮状を救った逸話が残されている。

\*

ことの起こりは帝政ロシア末期の、ポグロムの嵐が吹き荒れていたウクライナ地方。キエフ出身のユダヤ人、レオ・シロタはロシア革命の波に翻弄されて、妻とオーストリアへ逃れてそこで国籍を取得する。夫妻は新天地ウィーンで1923年に女兒を授かる。

「リストの再来」と称されたレオは、音楽の都ウィーンを拠点に、妻と娘を伴いながら各国のコンサートホールで優美なピアノの旋律を披露していた。そんな折に、ハルピン公演で知遇を得た日本人作曲家・山田耕筈こうさくの誘いを受けて1928年に訪日を果たす。日本での公演も好評を博して、それが機縁となって東京音楽学校ピアノ科教授として奉職する運びとなる。レオは乃木坂に住まいを求めて、家族とともにしばらく日本で腰を落ちつかせることになった。

ところが世界恐慌の勃発によって欧州では公演中止が相次ぎ、さらにユダヤ人排斥運動も激化。追い打ちをかけるようにドイツでナチスが台頭してオーストリアを併合すると、シロタ一家は帰国もままならない状況となる。

レオの娘は5歳での来日以来、母国語のドイツ語やロシア語に加えて、英語、フランス語、ラテン語に加えて日本語も話せるマルチリンガルに成長し、15歳になると語学の才能をさらに伸ばすためにアメリカの大学への単身留学を希望していた。しかし国籍があるオーストリアはナチスの占領下であり、1939年当時はユダヤ系市民のビザのための証明書の取得など望みうべくもない状況にあった。困り果てたレオは、当時、ご近所付き合いをしている顔なじみだった元・総理大臣兼外

務大臣の隣人に救いを求めた。

シロタ家の娘の窮状を知った廣田はすぐに駐日米國大使に電話を入れて、直談判の末に大使館の了承を得て特別にビザを發給してもらった。この時の廣田の行動は、杉原の 6000 枚の命のビザに比べればささやかなもののように思える。しかし、このユダヤ人少女、つまり、若き日のベアテ・シロタ・ゴードンの急場を救った 運命のビザは、敗戦後の日本に幸いすることになる。

渡米から7年、両親の安否確認のために日本に合法的に入国できる職を求めていたベアテ・シロタは、連合國軍最高司令官總司令部（GHQ）の民間人要員に応募する。六言語話者の才能を買われて本採用になったベアテは空路で厚木に降り立った。そして、ひとつづてに消息を求めて、輕井沢に疎開していた両親の無事を確認することができた。

一息ついたベアテに、GHQによる新憲法のモデル草案起草の極秘命令が下る。日本育ちのベアテは、日本人女性の社会的な地位の低さを渡米前から痛感していた。彼女は 女性の解放の想いを込めて、当時、世界最先端の「両性の本質的平等」の精神を条文の魂として盛り込み、日本国憲法第二十四条（家族関係における個人の尊嚴と両性の平等）の原案を起草した。この22歳当時のベアテの働きは極秘任務であったことから世に知られることはなかったが、2005年、映画『ベアテの贈りもの The Gift from Beate』の封切りを機に広く日本でも注目を集めることとなった。

歴史にイフはないが、もしも天国で廣田夫妻がこの映画を観たとしたら、「ご近所だった、あの子がね？」という驚きとともに、二人で目を合わせて微笑んだことだろう。



## 記憶の遺伝

I…それでは、気分一新！ ここからは再び、鬼滅バナシに推理の糸を垂らして参りましょう。

まずは、物語の主役である竈門炭治郎かまじ たんじろうから。炭治郎のキヤラクターを特徴づけるものとして、吾峠呼世晴先生ごとうけこよ はるが設定されたのが「記憶の遺伝」！ コレを見落とす訳にはいきませんね、教授。

W…そうですなあ……。この「記憶の遺伝」という概念がいねんは、ドグラ・マグラの中で正木先生が提唱しておられた「心理遺伝」や「胎児の夢」と丸被りまるかぶりで御座いましたからな。

I…そうですね！

……ある人間の体細胞の中で受け継がれてきた何代か前の祖先の記憶の断片が、外部からの何らかの強い暗示作用によって一瞬のうちに当人の自我・人格の中に入り込んで、祖先が見たり聞いたりしたことを当人がそのまま幻視げんしする！

……という正木博士が生前に提唱しておられた「心理遺伝」の発症なる概念が、『鬼滅の刃』においては「記憶の遺伝」として、夢野久作からワニ先生へとストレートに継承されているのです。

僕の見立てでは、ワニ先生こと吾峠呼世晴先生は、シヤロキアンンならぬ、ドグラ・マギアン、それも筋金入りのコアな夢Qファンであったろうことは疑う余地の無いことですよ。  
 W…左様、さよう……。私がたつた今、アイパッドドで検索してみた処では、「鬼滅の刃まとめ W.F.F.」  
 《2021年現在》に曰く……、

『記憶の遺伝』

人間は姿形だけではなく、先祖が体験した記憶も遺伝するという説。  
 本人は一度も体験したことがないのに、どこかで体験したことのように感じるものがそう呼ばれる。

現象そのものは心理学における「既視感」であるが、その概念は夢野久作著『ドグラ・マグラ』の「胎児の夢」に近い。

この考え方は刀鍛冶の里で伝えられているが、鬼殺隊全体に認められているわけではなく、俗信の一種として扱われている。  
 炭治郎が日の呼吸の剣士や炭吉の夢を見たり、彼らの言動をなぞったりすることが、これに当てはまる。

……で御座いましたからな。

I…ああ、惜しいナツ。この解説なら、「夢野久作著『ドグラ・マグラ』の「胎児の夢」に近い」よりも、「夢野久作著『ドグラ・マグラ』の「心理遺伝」に近い」とした方が、よりの確だったでしょうにね……。

炭治郎なら確かに母親の胎内でも継国縁壺の姿を「胎児の夢」として見ていたでしょうが、鬼滅のコミックでは13巻・第113話「赫刀」で、上弦の肆を相手に爆血刀を振るう炭治郎の脳裏に、炭吉の妻「すやこ」が縁壺の赫刀を見て綺麗だと微笑む姿が浮かんだり、21巻・第186話「古の記憶」の中で炭治郎が戦闘中に縁壺の姿を幻視するシーンが描かれていますから、ここでは「心理遺伝」とした方がよりシツクリくると思いますね、僕は。

W…その通りですな。さらに「体細胞の中で受け継がれる祖先の記憶」という意味で申すならば、「遊郭編」の戦闘シーンで炭治郎と対峙した堕姫が、戦国時代の頃の縁壺の姿を唐突に幻視するという場面が御座いましたな。アレなんぞも一種の「心理遺伝」の現れのひとつかと……。

I…ああ、コミック10巻・第81話「重なる記憶」の中で堕姫が……、「これは アタシじゃないアタシの記憶じゃない 細胞だ 無惨様の細胞の記憶……」と独白していた場面ですね？

W…左様で御座います。ヒノカミ神楽「灼骨炎陽」の斬撃を受けた堕鬼が、無惨の血の細胞に刻まれた「耳飾りの剣士」への恐怖の記憶が呼び起こされ、冷汗を浮かべておった場面です。

I…それにしても、鬼滅の背後にドグラ・マグラの気配を探り当てているあたりは、「鬼滅の刃まとめWiki」のお手並みは流石といったところですね。やはり、僕らにとっては令和のコアな鬼滅

ファンの皆様方は、ドグラ・マグラ復権にのぞみを繋つなぐ、一縷いちるの光ですよ！  
W…マツタクですな……。

## 嗅覚の訝え

I…：次に、炭治郎のキャラクターとしてもうひとつ、その類い稀な「嗅覚」を挙げることが出来ますが、ドグラ・マグラの主人公・呉一郎にも、呪いの絵巻物の画面から湧き出して来る底知れぬ鬼気と、神経から匂って来る堪え難い悪臭に悩まされるシーンがあります。ちょっと長い引用になりますが、呉一郎が正木敬之博士に勧められて呪いの絵巻物を披見する箇所を本から抜粋して読み上げて頂けませんか、教授？

W…畏まりました。では……、

象牙の篋を結び付けた暗褐色の紐を解いて巻物をすこしばかり開くと、紫黒色の紙に金絵具で、右上から左下へ波紋を作って流れて行く水が描いてあるが、非常に優雅な筆致に見えた。私はその青暗い平面に浮き出している夢のような、又は細い煙のような柔らかな金線の美しい渦巻きに魅せられながら、何の気もなくズルズルと右から左へ巻物を拡げて行ったのであった

が……やがて眼の前に白い紙が五寸ばかりズイとあらわれると、私は思わず……

「……アツ……」

と叫びかけた。けれどもその声は、まだ声にならない次の瞬間に咽喉の奥へ引返してしまつた。……巻物を両手に引きあげたまま動けなくなつてしまつた。息苦しい程胸の動悸が高まつて……。

そこに横たわっている裸体婦人の寝顔……細い眉……長い睫毛……品のいい白い鼻……小さな朱唇……清らかな腮……それはあの六号室の狂美少女の寝顔に生き写しではないか……黒い、大きな花卉の形に結い上げられた夥しい髪の毛が、雲のように濛々と重なり合っている……その鬢の恰好から、生え際のホツレ具合までも、ソックリそのままあの六号室の少女の寝姿を写生したものとしか思われはないか……。

しかしこの時の私には『何故』というような疑問を起す余裕がなかった。その寝顔……否、眠っているかのように見える表情の下から、微妙な彩色や線の働らきによつて見え透いて来る死人の相好の美くしさ……一種譬えようなない魅力の深さに、全霊を吸い寄せられ吸い奪われ てしまつて、今にもその眼がパツチリと開きはしまいか。そうして最前のように「アツ……お兄様ツ……」と叫んで飛び付いて来はしまいか……というような、あり得べからざる予感に全神経を襲われつづけていたのであつた。瞬一つ出来ず、唾液一つ呑み込み得ないままに、その臙脂色の薄ぼけた頬から、青光りする珊瑚色の唇のあたりを凝視していたのであつた。

「ハッハッハッ。馬鹿に固くなっているじゃないか。エー……オイ。どうだい。大したものだろう。呉青秀の筆力は……」

絵巻物の向うから正木博士がこんな風に気軽に声をかけた。しかし私は依然として身動きが出来なかつた。唯やっと切れ切れに口を利く事が出来ただけであつた。今までと丸で違つた妙なカスレた声で……。

「……この顔は……さっきの……呉モヨ子と……」

「生き写しだろう……」

と正木博士はすぐに引き取つて云つた。その途端に私は、やっと絵巻物から眼を外らして、正木博士のこつちに振り向いた顔を見る事が出来たが、その顔には一種の同情とも、誇りとも、皮肉とも何ともつかぬ笑いが一面に浮き出していた。

「……どうだい面白いだろう。心理遺伝が恐ろしいように肉体の遺伝も恐ろしいものなんだ。姪の浜の一農家の娘、呉モヨ子の眼鼻立ちが、今から一千余年前、唐の玄宗皇帝の御代に大評判であつた花清宮裡の双蛭姉妹に生き写しなんていう事は、造化の神でも忘れてゐるだろうじゃないか」

「……………」

「歴史は繰り返すというが、人間の肉体や精神もこうして繰り返しつつ進歩して行くものなんだよ。尤もコンナのはその中でも特別詭譎の一例だがね……呉モヨ子は、芬夫人の心理を夢中

遊行で繰り返すと同時に、その姉の黛夫人が、喜んで夫の呉青秀に絞め殺された心理も一緒に繰り返しているらしい形跡があるのを見ると、二人の先祖にソナ徹底したマゾヒズムスの女がいて、その血脈を二人が表面に顕わしたものかも知れぬ。又は呉青秀を慕う芬女の熱情が、思う男の手にかかって死んだ姉の身の上を羨ましがる位にまで高潮していたと認められる節もある。しかしそこまで突込んで行かずともその絵巻物の一卷が、呉青秀と、黛芬姉妹の夫婦愛の極致を顕わしていることはたやすく解るだろう……とにかくズット先まで開いて見たまえ。呉一郎の心理遺伝の正体が、ドン底まで曝露して来るから……」

私はこの言葉に追い立てられるように、半ば無意識に絵巻物を左の方へ開いて行つた。

それから順々に白紙の上に現われて来た極彩色の密画を、ただ、真に迫っているという以外に何等の誇張も加えないで説明すると、それは右を頭にして、両手を左右に伏せて並べて、斜にこつち向きに寝かされた死美人の全長一尺二三寸と思われる裸体像で、周囲が白紙になっているために空間に浮いているように見える。それが間隔三四寸を隔てて次から次へと合わせて六体在るのであるが、皆殆ど同じ姿勢の寝姿で、只違うのは、初めから終りへかけて姿が變つて行っている事である。

すなわち巻頭の第一番に現われて私を驚かした絵は、死んでから間もないらしい雪白の肌で、頬や耳には臙脂の色がなまめかしく浮かんでいる。その切れ目の長い眼と、濃い睫毛を伏せて、口紅で青光りする唇を軽く閉じた、溫柔しそうなみめかたちを凝視していると、夫のために死

んだ神々しい喜びの色が、一パイにかがやき出しているかのように見えて来る。

然るに第二番目の絵になると、皮膚の色がやや赤味があった紫色に変じて、全体にいくらか腫れぼったく見える上に、眼のふちのまわりに暗い色が泛み漂い、唇も稍黒ずんで、全体の感じがどこことなく重々しく無気味にかわっている。

その次の第三番目の像では、もう顔面の中で、額と、耳の背後と、腹部の皮膚の処々が赤く、又は白く爛れはじめて、眼はウツスリと輝き開き、白い歯がすこし見え出し、全体がものものしい暗紫色にかわって、腹が太鼓のように膨らんで光っている。

第四の絵は総身が青黒とも形容すべき深刻な色に沈みかわり、爛れた処は茶褐色、又は卵白色が入れ交り、乳が迂り流れて肋骨が青白く露われ、腹は下側の腰骨の近くから破れ綻びて、臍腑の一部がコバルト色に重なり合つて見え、顔は眼球が全部露出している上に、唇が流れて白い歯を噛み出しているために鬼のような表情に見えるばかりでなく、ベトベトに濡れて脱け落ちた髪の毛の中からは、美しい櫛や珠玉の類がバラバラと落ち散っている。

第五になると、今一步進んで、眼球が潰え縮み、歯の全部が耳のつけ根まで露われて冷笑したような表情をしている。一方に臍腑は腹の皮と一緒に襤褸切れを見るように黒ずみ縮んでピシャンコになってしまい、肋骨や、手足の骨が白々と露われて、陰毛の粘り付いた恥骨のみが高やかに、男女の区別さえ出来なくなっている。

最終の第六図になると、唯、青茶色の骨格に、黒い肉が海藻のように固まり付いた、難破船

みたようなガランドウになって、猿とも人ともつかぬ頭が、全然こっち向きに傾き落ちてゐるのに、歯だけが白く、ガツクリと開いたままくっ付いている。

……私は嘘を記録する事は出来ない。あとから考えても恥かしい限りであるが、私はおしまいの方ほど急いで見た。

勿論、この絵巻物を開いた最初のうちこそ、一種の反抗心と共に落ち付いた態度を保っていたが、死美人の絵が出て来ると間もなくそんな気持ちはどこへやら消えうせて、巻物を開き進める手がだんだんと早くなるのを自覚しながら、どうしてもそれを押し止める事が出来なくなつた。それでも眼の前の正木博士に笑われてはいけなと思つて一所懸命に息を詰めて、出来るだけ念を入れて見たつもりであつたが、それでもとうとうしまいには我慢出来なくなつて、第六番目の絵などは殆ど眼の前を通過させただけで云つてよかつた。画面から湧き出して来る底知れぬ鬼気と、神経から匂つて来る堪え難い悪臭に包まれて、殆ど窒息しそうな思いをしながら、やっと、おしまいの由来記の頭が見える処まで来ると、思わずホツとして吾に返つた。それから四五尺の長さにメッキリと書き詰めた漢文の上を形式ばかり眼を通して、その結末にある

大倭朝天平宝字三年癸亥五月於西海火国末羅渴法麻殺几駅

大唐翰林学士芳九連二女芬識

という文字を二三度繰り返して読んで、いくらか気を落付けてから、もとの通りに巻き返し

て箱の横に置いた。それから神経を鎮めるべく椅子に背を凭たせて、両手でピッタリと顔を押えながら眼を閉じた。

I ……朗読、ありがとうございます、若林教授。

W …ナルホド……。ドグラ・マグラの主人公「私」も、絵巻物の画面から湧き出して来る底知れぬ鬼気を感じ取るばかりでなく、神経から匂って来る堪え難い悪臭をも知覚し得るほどの特殊能力者として、竈門炭治郎同様、常人にはない嗅覚の能力を持つ人物像とされておったのですな。

I …ハイ。「私」は他にも、絵巻物の匂いを嗅いでみて、常人では気付きえない樟腦の香気に紛れた香水の微香を嗅ぎ分けて、その持ち主の正体を探ろうとしていたくだりもありましたよね。

ですから、直方事件の後の事情聴取で、呉一郎が……、

空気の悪いのと、石炭の臭いだけはシンから嫌でした。

……と供述していたように、彼の一番の弱点は、その鋭敏すぎる嗅覚を阻害する悪臭だったのです。中でも一郎がシンから嫌っていたのが、石炭が燃える時に出る煙の臭いでした。

このようにドグラ・マグラの主人公に夢野久作が設定した特性から、ワニ先生こと吾峠呼世晴先生は、竈門炭治郎のキャラクター像の一番の特徴である嗅覚に関する異能を着想され、それを糸口

として、鬼殺隊入隊の最終選別に残った他の同期の剣士たちのそれぞれの異能力へとイメージを膨らませていかれたのだらうと僕は推察しているのです。

## 五人の同期隊士

W…：…炭治郎と同期の他の剣士たちの異能力と申しますと？

I…それをお答えする前に、若林教授は鬼殺隊の最終選別がおこなわれた藤襲山ふじかさねやまで生き残った剣士は何人だったかを憶えておいでですか？

W…勿論もちろんで御座います。最終選別結果の報告を受けたお館様やかたさまが、

そうか 五人も 生き残ったのかい 優秀だね

また私の 剣士けんしが増えた…：… どんな 剣士けんしに なるかな

と語っておりましたから。

竈門炭治郎と我妻善逸あがつまぜんいつ、栗花落カナヲつゆり、不死川玄弥しなずがわけんやの四名に、あと何故か合格発表の場では姿が見えなかった嘴平伊之助はしびらいのすけを加えた計五名で御座います。

I…僕の推理では、ワニ先生は炭治郎と善逸と伊之助に呉一郎の能力や資質の一部を分け与えて、五名の中の主役である炭治郎に嗅覚の能力を割り振ることが決定した段階で、人間の五つの感覚を各人にひとつずつ異能力として宛てがって隊士像を造形していかれたに違いないのですよ。

W…五感ということは、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚ですか……。

I…はい。端的に言えば……、「嗅覚の特異体質者」炭治郎。聴覚「善逸」。触覚「伊之助」。味覚「玄弥」。視覚「カナヲ」といったぐあいです。鬼滅の作者はこのような思考法で各キャラクター像の最初の骨格を組み上げて、それぞれの異能力に見合った外見や過去の逸話などを肉付けして同期の五人組を生み出されたのだと思いますよ。

W…ナルホド……。そのように考えると、いろいろと腑に落ちる点がありますな。

竈門炭治郎の、人や鬼の気持ちを嗅ぎ取る能力と、鬼との戦闘場面において「隙の糸」を嗅ぎ分けて、自在に攻撃を繰り出す能力。

我妻善逸の、目を閉じて睡眠状態のままでも戦闘継続を可能とする、研ぎ澄まされた聴覚。

嘴平伊之助の、隠れた相手でも気配でその位置を素敵できるという、並外れて鋭い皮膚感覚。

不死川玄弥の、鬼を喰らうことで鬼が持つ怪力、不死性、超再生能力を一時的に我がものとするという、常人が持ちえない特異な味覚。

栗花落カナヲに至っては、孤独な幼少期に暴力に囲まれた境遇の中で生き延びるために必死のおもいで身に付けたという人並み外れた視力。その後、蝶屋敷に保護されてからは、この視力は「花

の呼吸」でさえ体得できるまでの、動体視力として磨き抜かれます。そしてカナヲのこの特殊視力は、最終的に「終ノ型・彼岸朱眼」へと結実する……。

と、こういった感じで御座いますな。

マンガというものはこのように、最初に登場人物ごとに核となるイメージのタネを配列しておいて、物語の展開の中でそれぞれのイメージの翼を拡げてゆくものなのですなあ。

I…そうですね。例えば伊之助の場合でいうと、彼の役柄である皮膚感覚の冴えを阻害するような衣服は付けさせない方が道理に適用ということから、あのような佇まいをさせているのだと、作者の思考回路を逆から推理することも可能となってくる訳です。

さらに、「記憶喪失状態の美少年」というドグラ・マグラの主人公「私」のキャラクター像についても、おそらくは「一郎」の名を受け継いでいるのに相違ない、例の「霞のような記憶しか持ち合せていない柱」の誕生へと繋がっているという訳です。

W…：…貴方様は、こんな精神科病棟の片隅の七号室なんで焼つておられるよりも、『B E I B O P P E R H I G H S C H O O L』のきうちかずひろ先生や、あの『進撃の巨人』の諫山創先生が学ばれたことで名を馳せる、博多駅前九州デザイナー学院のマンガ学科かナニかで講師にでもなられた方が向いているではありませんか？

I…いやー、そんなあー（赤面）。

W…ちなみに………、

『進撃の巨人』の最終巻までの数巻を未読の私奴が推察する処によりますと、主人公のエレン・イェーガーとジーク・イェーガー戦士長と父・グリシャ・イェーガーの三者のプロット上の関係性は、長浜忠夫監督の『超電磁マシーン ボルテスV』の最終盤で開示された、ボルテスメカのメインパイロットで主人公でもある剛健一と地球征服軍司令プリンス・ハイネルと父・剛健太郎の三者の関係性と相似形を成すものであり……、また、『進撃の巨人』に登場する巨人は、『ボルテスV』等の系譜を受け継ぐスーパーロボット・シリーズの亜流とも呼べる、庵野秀明監督の『新世紀エヴァンゲリオン』に登場する「汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン」、通称「EVA」の拘束具である全身装甲を全て解除した剥き身のEVAを、そのモチーフとした可能性が高いのであります。

……と申しますのは、巨人のパイロットともいえる巨人化能力者たちの搭乗部位が巨人の後頭部より下のうなじにかけての辺りにあって、これはEVAパイロットの操縦席を内包した「挿入型容器」のEVAへの挿入部位とまったくの同一ポイントであることから窺い知れる事象なのであります。

仮にこの推理を是とすれば、『進撃の巨人』における「硬質化」の能力は、そもそもはEVAの「絶対不可侵領域」から想起された能力だったのであるまいか？ との推理も脳裏を過ぎっていくのであります……。

そのように思案しておるうちに、図らずも面白い事に気付きましたゾ。海の向こう側から押し寄せる敵（マール）に備えて巨人の壁でパラディ島を護っていた『進撃の巨人』の設定は、あるいは、古墳の石材さえ剥ぎ取って突貫作業で高い石壁（元寇防塁）と土居（高さ7メートルの土塁）を築き都市防衛に徹していた中世の博多や、その六百年も前に高さ9メートルもの土壁（水城）を築きつつ、唐・新羅連合軍の侵攻を防ぐべく総延長50キロほどの巨大な防衛施設（羅城）によって「総構え」を完成させておった古の大宰府をモデルとしておったのではありますまいかと……。

マア、それはさておき、『進撃の巨人』の最終話付近のプロットを私なりの推理眼で見つけてみるならば、思うに、宮崎駿監督の『風の谷のナウシカ』に登場する王蟲の「大海嘯」や、白土三平先生の『忍者武芸帳』の「ジバシリ」とも何処となく似通っている「地鳴らし」を発動させることにも、主人公のエレン・イエーガーはやがては成功するのでありましょうが、その際に巨人化するエレンの姿としてはそれまでのような人型巨人の外見とはまるで異質の姿をしている方がより劇的であるようにも思われるのであります。そう、例えば一案としては、東映動画がかつて製作した『大空魔竜ガイキング』に登場してくる超巨大攻撃母艦「大空魔竜」をモデルとして、その全身骨格標本のような異形の姿に禍々しくデザインし直した方が、読者により強力なインパクトを与えることになるのではあるまいか……などというようなことも推測されるので御座います。

同時に、プロット上の結末としては、新房昭之監督の『魔法少女まどか☆マギカ』のラストで主人公の鹿目まどかが「過去や未来全ての魔女を生まれる前に消し去ること」……を願った、あの秀

逸なオチを踏襲する形で、この『進撃の巨人』においても「地鳴らし」が発動中の壊れかけた世界で、主要キャラクターの誰がしかが「巨人の力を、この世から消し去ることを願って、エルディア人たちの巨人化能力にまつわる「円環の物語」に終止符を打つ！……という形で、諫山創先生は物語にケリを付けられるおつもりではなからうかと個人的には推理しておる次第であります……。その際の見せ場としては、永井豪先生の『デビルマン』の例の名シーンに肖って、ミカサがエレンの生首を抱擁して、その裡に秘めた深い愛情を無言のうちに表明する！ というような演出もまた、効果的なのではあるまいかと推察する次第なのであります!!

なお、諫山創先生は、主人公のエレン・イエーガーの名を、例の「門の年々」にベルリンの壁崩壊の切っ掛けをつくったブランデンブルクのパスポート審査官H・イエーガーのファミリーネームから拝借しておられ、また、ミカサやリヴァイ等の「アッカーマン一族」なる名称の元ネタは、高等数学において与える数が大きくなると爆発的に巨大な値を出力することである「アッカーマン関数」からその着想を得られたものに相違ありません！

……などというような講義が、ドアの向うから漏れ聞こえてくるので御座いませうか、九州デザイナー学院、通称「九デ」のマンガ学科の教室内からは？

I ……………。

きよ、教授の方こそ、こ、ここを退院されたら……ハア、ハア、ハア、ハア、ハア……きゅ、九デの

講師に即採用ですよ、たぶん。……フウ——。

## 注解

(1) 専門学校九州デザイン学院は、福岡市博多区の博多駅前にある私立専修学校。専門学校を省略して「九州デザイン学院」と呼ばれることが多い。通称は「九デ」。著名な卒業生に、きうちかずひろ、諫山創がいる。

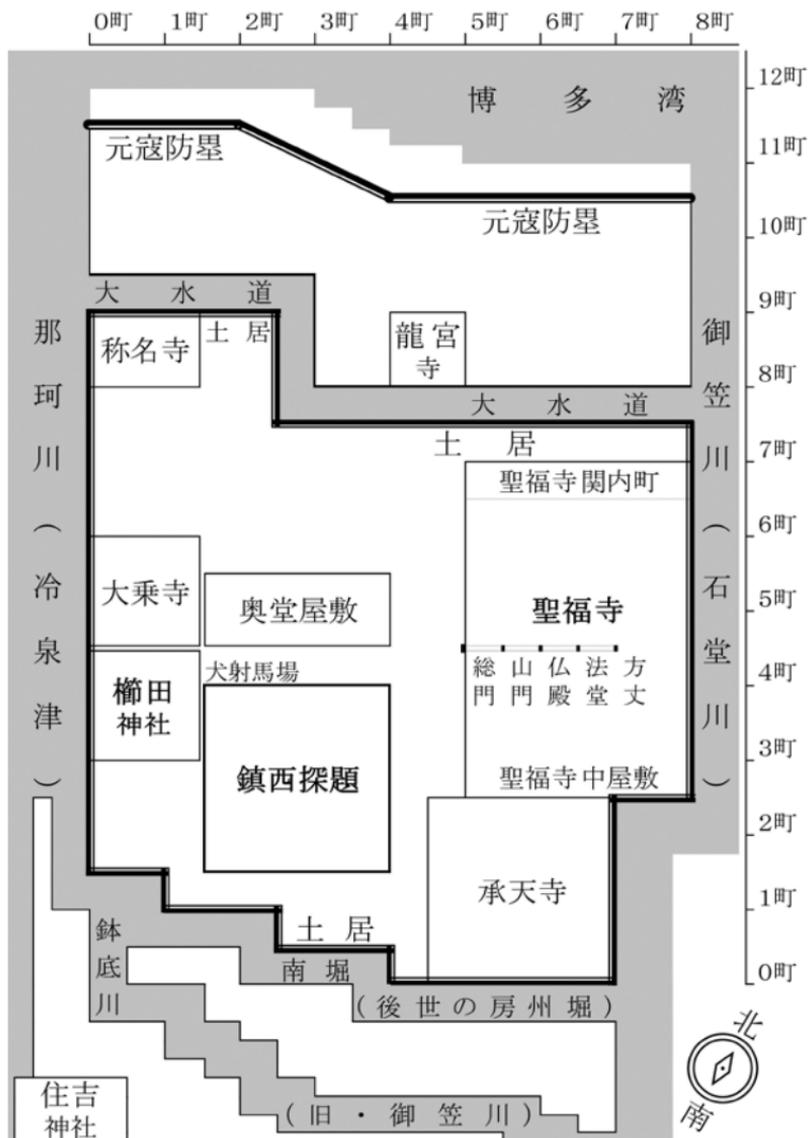
(2) ここでいう「土居」は、元寇の第一波である文永の役(1274年)を機に博多の周囲に築かれた土塁を用いた城壁を指す。鎌倉幕府は蒙古襲来の第二波に備えて博多を城郭化し、博多の西端の櫛田神社と東端の聖福寺に挟まれた南部の一画(二町半・275m四方)に鎮西探題の館を置き、そこを本陣とする城郭都市を築いた。

博多は北に博多湾、西に那珂川(当時の冷泉津)、南に御笠川と三方を水に囲まれた地形だったが、無防備な東に土居(土塁)を築きつつ東堀の機能を果たす人工河川「石堂川」を掘削し、御笠川の流路を北に変えると、鉢底川(旧・御笠川)を天然の南堀として活用し、その内側に土居と堀(後世の房州堀)を築造して防衛体制を固めた。一方、博多湾沿岸には全長20kmの石壁「元寇防塁」を築いて第一防衛線とし、その後方(三町・330m)地点に石堂川と那珂川をつなぐ水路「大水道」を通して乱杭・逆茂木・柵を施し、高さ7mの土居とあわせて第二防衛線とした。

博多の都市設計は、源頼朝が開基し栄西禪師が開山した日本最古の禅寺・聖福寺の伽藍群から、櫛田神社の櫛田浜口へ伸びる東西線と、それに直交する南北線(御供所通り)を基軸線としており、寺

### 城郭都市・博多【文永の役（第1次元寇・1274年）後の町割】

佐藤鉄太郎著『元寇後の城郭都市博多』をもとに作成



社や鎮西探題、各種防衛施設などが正確に半町（55m）ごとに区画された基準線に沿って配置されていた。その名残りとして、鎌倉時代に成立し現在まで残る日本最古の貴重な街並が「聖福寺関内町」に現存する。なお、桃山時代に博多を訪れた豊臣秀吉は帰京後に洛中の周圀に「御土居」を築いているが、その原型が博多の土居だとされている。（参照、佐藤鉄太郎著『元寇後の城郭都市博多』から）

(3) 羅城とは、古代中国などの大陸で見られる城壁のこと。これは、土塁や石塁などによって敵の侵入・攻撃を防ぐことを目的に都市の周圀にめぐらした長大な外郭のことを指す。なお、羅城に開かれた門を羅城門（羅生門）と呼ぶ。

大宰府の東西南北にはそれぞれ、阿志岐山城・水城・基肄城・大野城などの飛鳥時代（593～710年）の史跡があり、これらを羅城の一部と考えている人もいる。この考えによると、大宰府は博多湾方面からの敵軍だけではなく、搦め手の有明海や日田街道方面からの敵襲にも羅城で備えていたことになる。ちなみに、『進撃の巨人』の作者・諫山創は大分県日田市の出身である。

(4) 大宰府（だざいふ）は、7世紀後半に九州の筑前国に設置された地方行政機関。糸坊都市・大宰府は現在の福岡県太宰府市・筑紫野市にまたがり、国の特別史跡に指定されている。軍事・外交を主任務とし、九州地方の内政も担当した。

多くの史書では「太宰府」とも表記されているが、昭和30年代末に九州大学の鏡山猛氏が地名や天満宮など以外は「大宰府」と表記するよう提唱したことから、古代律令時代の役所とその遺跡は「大宰府」、中世以降の地名や天満宮については「太宰府」と表記するようになる。役所の表記もこれにならない、「大宰府政庁跡」「太宰府市」というように使い分けられている。



羅城の範囲図

『鬼滅の刃はドグラ・マグラ』三巻目（モーサマの眼とヨコセイの四月馬鹿<sup>エイプリルフール</sup>…の巻）は続刊。

梅乃木彬夫（うめのき あきお）

ドグラ・マグラ研究者。福岡市姪の浜、愛宕下の  
石切場跡地で生まれる。

ウェイト＝スミス版タロットカードのデザインに  
秘められた謎と正四面体地球儀の謎について研究  
している。



二本指スワイプで  
地球儀を操作可能

鬼滅の刃はドグラ・マグラ② ドグラ・マグラの誕生…の巻

---

2024年5月20日 初版第1刷発行©

定価はカバーに表示してあります

著者 梅乃木 彬 夫

発行者 米 本 慎 一

発行所 不知火書房

〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-78

電話 092-781-6962

FAX 092-791-7161

郵便振替 01770-4-51797

印刷／青雲印刷 製本／岡本紙工

---

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

Printed in Japan

© akio UMENOKI. 2024.

ISBN978-4-88345-162-3 C0095

梅乃木彬夫 著

鬼滅の刃はドグラ・マグラ 全5巻

1 ドグラ・マグラの謎を解く…の巻

第1章 鬼滅の刃を迎えて解く／第2章 迷宮からの脱出

四六判 1800円

2 ドグラ・マグラの誕生…の巻

第1章 夢Qのバックボーン／第2章 襦豆子の竹

四六判 1800円

3 モーサマの眼とヨコセイの四月馬鹿…の巻 エイプリルフール \*以下続刊

4 青黛山如月寺縁起(仮) …の巻

5 ユメノ聖地巡礼(仮) …の巻

夢野久作と杉山三代研究会 会報

民ヲ親ニス

12号は品切。3～10号は在庫あり。各号A5判 2000円～2500円

第10号目次から

■第10回研究大会の記録(アジア主義の原理 中島岳志／夢野久作を歩く 杉山満丸／夢野久作「ドグラ・マグラ」草稿残存状況 大鷹涼子／鶴見俊輔「ドグラ・マグラの世界」の戦略性 加藤慶介／杉山茂丸が大日本相撲協会設立に果たした役割 相沢亮) ■特別資料(西の幻想作家——夢野久作のこと——杉山龍丸) \*「九州文学」全12回連載分を初収録。

